

熊本県災害対策本部会議 議事録

第1回熊本県災害対策本部会議 議事録

日時 平成28年4月15日(金) 0:30～

場所 県庁新館10階 災害対策本部室

1 地震の状況

別紙資料のとおり

2 被害の状況

・益城町安永 火事1件 体育館、公民館屋根倒壊 生き埋め3人(機動隊対応中)

倒壊家屋9か所

- ・益城町惣領 ガス漏れ多数
- ・益城町高園 家屋倒壊1件 80才女性下敷
- ・震源地付近 陥没地あり
- ・国道445号 法面崩壊 場所不明
- ・県道熊本高森線 西原村～益城方面全止
- ・阿蘇山付近4km全止
- ・八代市 負傷一転倒、骨折、過呼吸
- ・八代市鏡 水道管漏水
- ・西原村 住宅半壊
- ・南阿蘇村 長陽レストラン負傷1
- ・八代石油コンビナート(八代振興局) 火災なし
- ・川内原発(九電情報) 被害情報なし

- | | |
|----------------|--------------|
| ・熊本市消防 大きな被害なし | ・山鹿市消防 被害なし |
| ・菊池消防 被害情報なし | ・有明消防 被害情報なし |
| ・水俣芦北消防 被害情報なし | ・天草消防 被害情報なし |

3 県等の対応状況

- 21時26分 熊本県災害対策本部設置
- 22時05分 緊急消防援助隊派遣要請
- 22時40分 自衛隊へ災害派遣要請
- 24時30分 第1回災害対策本部会議開催

4 災害対策本部長の発言

(蒲島知事)

本日、21時26分頃に熊本地域を震源地として発生した大規模な地震による災害は、県民の生命、身体及び財産に重大な影響を及ぼすものであることから、被害を最小限にとどめるため、県民の人命救助を最優先に、以下の対処方針により総力をあげて災害応急対策に取り組むものとする。

- ・ 発災後、特に72時間における被災者の救出・救助
- ・ 被災状況等事態の迅速な把握
- ・ 必要に応じた関係機関への的確な支援要請

5 県の対応方針

- (1) 被災者の人命救助を最優先とする。
- (2) 被災地の状況が十分に把握できていないため、情報収集に引き続き取り組む。
- (3) 県民に対して適時適切な情報発信に努めるなど、被害の拡大と二次被害の発生防止に努める。
- (4) 県職員（全部局）をあげて、災害対策にあたることとする。

以 上

第2回熊本県災害対策本部会議 議事録

日時 平成28年4月15日(金) 3:00～

場所 県庁新館10階 災害対策本部室

1 災害対策本部長の発言

(蒲島知事)

今回の突然の地震で、現段階でお2の方が亡くなくなりました。熊本県知事として、県民を代表して心からお悔やみを申し上げる。

県としては、引き続き、人命の救助を最優先に、被害状況の収集に全力を注力して参る。

なお、現段階で352箇所2万3,000の方が避難されている。

今日の朝6:00を目途に必要な水と食糧が届くよう、民間と連携し、全力で取り組んでいただきたい。

2 関係機関の活動状況

消防応援隊、自衛隊、日赤救護班、海保の巡視艇などいろんなところから応援に駆け付けていただいている状況。

3 県等の対応状況

(健康福祉部)

県内病院の日赤、市民病院、国立、熊大、済生会の主に5つの病院で390人受け入れている。

県内DMAT 5チームが益城町に入っている。

県外のDMATとして、大分県から6チームが日赤と益城町、鹿児島県の1チームが益城町、佐賀の1チームも益城町に入っている。

健康福祉部から救援物資として、益城町に2リットルのペットボトルを1,100本、毛布500枚、簡易トイレ300等を搬送予定。

熊本市からの要請で毛布5,000枚を搬送予定。御船町から毛布1,500枚の要請があっている。

(企画振興部)

九州新幹線、回送中の新幹線6両が脱線した件で明日、国土交通省の調査が入るため1日運休の見込み。

在来線の状況、3区間、松橋～小川、瀬田～立野、田原坂～木の葉で運休停止した列車があったが、乗客の輸送を完了した。在来線については、午前中に確認するので、その時点で運行の可否を判断する。

空の状況、熊本空港管理事務所に確認したところ、施設、滑走路を確認したが被害はない。航空機の発着については、明朝、滑走路を再度確認したうえで判断する。ANAは、朝の2便、熊本発羽田行、熊本発伊丹行がそれぞれ欠航。

バスの状況、路線バスの運行は事故なく終了。高速バスについては、全ての確認はできていないが、被害の報告はない。宮崎発福岡行の高速バスフェニックス号が高速を降りて、西部車庫に移動し、乗客9名が西部車庫の仮眠室で待機中。

(土木部)

道路関係で29カ所の全面通行止めが判明している。可能な限り早期に片側通行できるように明朝から対応したい。河川、砂防施設についても明朝から調査をしたい。

(九州地方整備局)

ヘリの運航状況について、明日、夜明けとともに福岡市と高知県の消防ヘリが偵察ということでこちらに向かっていただくことになっている。県警ヘリ、自衛隊のヘリも合わせて5機飛ぶことで調整を進めている。

(海上保安部)

今のところ沿岸部についての被害は確認されていない。
航空機1機により熊本県沿岸部の被害状況を調査予定。
横浜の特殊救難隊が、鹿児島航空基地の方に到着し出動準備を完了。

(総務部)

益城町をサポートするため、職員の派遣を始めている。上益城振興局から既に2名を派遣している。明日朝にでも各部にも依頼させていただきたい。

(以上)

第3回熊本県災害対策本部会議 議事録

日時 平成28年4月15日（金） 7：00～

場所 県庁新館10階 災害対策本部室

1 地震の状況

別添資料のとおり。

2 被害の状況

死者9名。

停電や交通機関への影響多数。

その他被害多数。（資料参照）

避難者数等は資料のとおり。

3 県等の対応状況

県施設の被害は別添資料のとおり。

救援物資運搬開始。

4 災害対策本部長の発言

（蒲島知事）

夜が明けるにしたがい、被害の全容が少しずつ明らかになってきている。大変悲しい事だが、県警が把握している情報によると、9名の方々の尊い人命が失われたことが確認されている。改めてご冥福をお祈りしたいと思う。

更に、時間の経過に伴って被害の拡大も懸念される。

発災当初から申し上げているとおり、人命救助を最優先に、現在自衛隊や警察・消防などの関係機関との連携を密にして、被災された方の救出・救助に全力を尽くしていただきたい。

同時に、被災状況の把握等にも迅速に取り組んでいただきたい。

（以 上）

第1回政府現地対策本部会議・第4回熊本県災害対策本部会議 議事録

日時 平成28年4月15日(金) 13:00～13:35

場所 県庁新館8階 職員研修室

1 地震の状況

別添資料のとおり。

2 被害の状況

死者9名。

停電や交通機関への影響多数。

その他被害多数。(資料参照)

避難者数等は資料のとおり。

3 県等の対応状況

企業等からの支援申し出あり。

県施設の被害は別添資料のとおり。

災害救助法の適用。

4 県災害対策本部長の発言

(蒲島知事)

昨日の震度7の地震により、非常に大きな被害が発生している。県警が把握している情報によると、9名の方々の尊い人命が失われ、その他に1,000名余りの方が怪我をされておられる。

更に、時間の経過に伴って被害の拡大も懸念される。

余震も続いており、2次被害がないように人命救助を最優先に、自衛隊や警察・消防などの関係機関との連携を密にして、一人として見逃しがないう救出・救助に全力を尽くしていただきたい。

家屋が倒壊していなくても、かなり傷んでいるものも多いと思われることから、家屋の安全確認に国と一緒に頑張って取り組んでいただきたい。

また、被災者の皆さんに安全に過ごしていただくため、できる限り避難所の環境をととのえていただきたい。

引き続き、被災状況の把握にも迅速に取り組んでいただきたい。

(以上)

第2回政府現地対策本部会議・第5回熊本県災害対策本部会議 議事録

日時 平成28年4月15日（金） 17:00～

場所 県庁新館8階 職員研修室

1 地震の状況

（気象台から報告）

2 被害の状況

死者9名。

住家被害については、調査中。

救出・救助、捜索の状況については、現時点では行方不明者、生き埋め者の情報は入っていない。益城町を中心にローラーで捜索を実施中。

12,300戸が停電。

3 政府現地対策本部長の発言

（松本副大臣）

地震発生後、初めての夜を迎える。皆さんもお疲れと思うが、被災者の皆さんを勇気づけることをしっかりやってもらいたい。食料、毛布等の供給も願います。

メディアの方には、今後、雨が予想されるので二次災害に注意を呼び掛けてもらいたい。

本日、国道443号の瓦解現場を見てきた。現在応急対応中。何とか明日中に1車線でも復旧させるということ聞いて有りがたいと思った。

町役場に向かったが、そこまでの道路が動かない。早急の改善が必要。原因を究明し、一両日中に着手する必要がある。

水道も町が、一度、開いて漏水をしているところを見て、対応していくしかないとおっしゃっていた。

明日は安倍総理が現地に入る予定。国が全力で対応する。

被災から抜け出すために積極的な提言をお願いする。

4 県災害対策本部長の発言

（蒲島知事）

昨日の震度7の地震により、非常に大きな被害が発生している。県警が把握している情報によると、9名の方々の尊い人命が失われ、その他に1,000名余りの方が怪我をされておられる。この他に、依然として7,000人以上の方々が避難されている。

引き続き大きな余震に警戒する必要があることや、今後まとまった雨が予想されていることから、土砂災害等にも警戒しつつ、引き続き人命救助・被災者支援に全力を尽くしていただきたい。

このような中、企業や関係団体の皆さまによる支援の輪が広がっている。

例えば、熊本県建設業協会による建設資器材の提供、道路の啓開作業、肥後銀行やファミリーマート、熊本県パン協同組合、鶴屋百貨店、ホンダ、イズミなどから水や食糧の提供、熊本県トラック協会による支援物資の輸送がなされている。

この他、「えがお」などの企業による避難者の受け入れもなされるなど、多くの支援をいただいております。心から感謝申し上げます。

やがて、発災から20時間近くが経過し、被災者の皆さんにも疲れが見えてきていることから、官民力を合わせて支援に努めて頂きたい。

5 県等の対応状況

(総務部)

税の災害減免の措置を本日スタートした。

消防を含めた各救助機関で活動をお願いしている。

(企画振興部)

九州新幹線は止まっているが、博多～熊本間で臨時列車を運行しているため、見合わせている区間は、熊本～八代間となっている。

バス関係では、前回は都市バスで一部運休があったが、迂回運行している。

フェリー関係で、九商フェリーは可動橋が破損しているため、15日は全便欠航であるが、長引く可能性がある。代替運送として、有明フェリーが3便の増便がある。

(健康福祉部)

物的被害について、高齢者、障がい者、保育所関係の数字が全体で増加している。

物品提供について、大塚製薬様から18万本の飲料水の提供あり、本日、益城町に送ることになっている。

(環境生活部)

水道施設について玉名市及び合志市で濁水が発見され、給水車等により対応中。

断水戸数について、資料では、約6万9千5百となっているが、益城町の数字が入っていなかった。正しくは、計8万5百戸が現在の数字。

廃棄物処理施設について、焼却炉等、破損が見つかった。

(商工観光労働部)

避難所への物資の提供についてイズミが提供開始。

観光について、熊本市は調査中であるが、それ以外では、キャンセル数が3,486名、外国人観光客126名という集計が出ている。

(農林水産部)

林業関係で、上益城で3カ所、阿蘇で2カ所の山腹崩壊が確認された。

J Aグループから資材の提供が始まっている。

(土木部)

国道443号も含めて少しずつ復旧対応中。

県では、益城町の建築被害の特に大きかった地域において、被災した建築物を現地で調査して、その危険性を判定する応急危険度判定を開始している。2次的被害を防止することを目的としており、倒壊の危険性があるものは赤のカード、立ち入る際に注意を要するものは黄色のカード、被害の程度が小さいものは緑のカードで表示する

ことになる。概ね1週間で判定を行い、明日からは県内外の建築士の協力を得て、1日、概ね50名から60名の体制で進める。

(企業局)

有明工水について状況確認したところ、全社操業に問題なし。

駐車場について、商工会館の傾いている部分の撤去方法について検討中。駐車場の建物自体の躯体への重大な損傷はなし。企業局が管理するダムについては、全て異常なし。

(教育庁)

県立学校では、54校中22校が被災。特別支援学校17校中9校が被災。市町村の公立学校については、46市町村のうち21市町村が被災している。

熊本市の被災が多くなっているが、益城町については、まだ、電話での確認であり、今後増えていくものと思われる。

6 国等の対応状況

(内閣府)

第1回非常災害対策本部会議が、4月14日の23時21分に開催。第2回が本日の8時8分。第3回は本日の16時7分に開催。

明日は、内閣総理大臣及び国交大臣が現地入り。

(自衛隊)

2,000名を動員して対応中。

(警察庁)

消防、自衛隊と協力して捜索活動実施。併せて防犯活動も実施。

(国土交通省)

九州縦貫道のえびの・松橋間が開放。南九州西回り自動車道も開放。

問) 国道に関しては、高速道路以外は目処がたったのか。(政府現対本部長)

答) 国交省所管の道路については、そのとおりである。(国交省)

意見) 物品の提供があるのに、益城町役場へのアクセスが機能しない。これを何とか解決したい。被災者が頼っていくところなので対応をお願いする。(政府現対本部長)

問) 電気復旧の方向性について報告願いたい。(政府現対本部長)

答) 停電については本日中の復旧を目指している。避難所で停電している箇所については、非常用電源車で対応する。(九州電力)

意見) 阪神・淡路大震災時は通電時に火災発生というケースがあったので注意をお願いする。(政府現対本部長)

(気象台)

明日から明後日の気象情報について、16日夜から17日にかけて大雨になる恐れがある。地震で揺れの大きかった地域では、土砂災害に注意していただきたい。

7 小野副知事の発言

益城町役場周辺は道が狭く渋滞が予想されていた。必要な物資が届かないこととなるので、早急に国交省、警察及び県土木部と協議して、交通規制をどうすべきなのか検討すべき。

(以 上)

第3回政府現地対策本部会議・第6回熊本県災害対策本部会議 議事録

日時 平成28年4月16日(土) 10:00～

場所 県庁新館10階 災害対策本部室

1 地震の状況

4月16日の1時25分に前のものよりも規模がより大きな地震が発生。

震度は6強だったが、その後、3時55分に震度6強(震源は阿蘇地方)。相次いで大きな地震が発生している状況。

2 被害の状況

死者15名。住家被害は現在調査中。

1時25分に発生した後の自衛隊への災害派遣要請の状況は、人命救助として阿蘇市、南阿蘇村、給水関係で菊陽町、甲佐町にお願いをしている。

国との協議等については、知事と総理大臣等とのテレビ会議、意見交換あるいは国への支援に関する要望等を行っている状況。

3 県等の対応状況

(総務部)

地震の影響で、県庁舎を開放し、避難者の受け入れを行っている。

本館ロビーに100人、地下大会議室に200人、新館ロビーに40人、また、県庁内の駐車場に車を止められている方を含め、合計440人以上の避難者を受け入れられている状況。

県立大学の状況については、8時現在で400名の避難者受け入れを行っている。

私立高校については、避難所が足りないとの声を受け、体育館等の避難所としての開放をお願いしている。現時点で6校が受け入れを行っている。

(企画振興部)

交通関係については8時30分現在で、JR九州は県内全線運転見合わせ。

肥薩おれんじ鉄道は八代～高田間で運休している以外は運行中。

航空機については、空港ビルの被害が見られ、終日閉鎖が決定されている。

ただし、滑走路については使用可能となっている。

天草エアラインは、天草～福岡間は通常通り運航、阿蘇くまもと空港発着便は全便欠航。

(健康福祉部)

人的被害の状況については、資料のとおり。

基幹病院の状況については、救急の受け入れが不可、熊本赤十字病院については、電気、水、ガス等について支障があるとのことで救急の受け入れが難しい。

市民病院については、建物等も含め難しい。さくら病院についてもすでに一杯であるため難しいということになっている。これについては、DMATのほうで調整を行っている状況。

DMA Tの活動状況については、14日の災害発生後直ちに九州各県から参加いただき、現在夜を徹して対応をいただいている状況ではあるが、本日の状況を踏まえて中国、四国、関西のチームに対して要請を行っている状況。

市民病院の患者の転院・搬送についても現在出動中。

ドクターヘリについては、九州、山口、広島、愛媛、高知等について、ヘリの出動を要請中。

(環境生活部)

水道関係で、熊本市の全戸、32万戸が断水中。22箇所の給水地を給水車が巡回している。

環境省の災害廃棄物処理チームが熊本入りしており、益城町等の瓦礫処理等の技術的支援を行うということで、環境省のD.Waste=Net チームが熊本入りして巡回している。

(商工観光労働部)

水を協定先からできるかぎり集めようということで、県庁に送るよう交渉中。

水が約13万本、プラス若干の食糧、その後イオンに水10万本追加をお願いし、合計23万本確保の状況。

また、阿蘇の採石場で大規模な崩落があっているという報告を受けている。

(農林水産部)

農業用ため池ダムについて、大切畑ダム決壊の情報が流れたが、誤報だった。ため池の水位低下に向けて、国交省、農水省等と放流作業に取り掛かっている状況。

大規模な山地崩壊について、立野にある阿蘇大橋を落とした大規模斜面崩壊。

阿蘇市の外輪山の崖については、大規模な斜面崩壊が起こっており、下に人家がないか確認中。

震災に伴って農家被害が発生している。県内及び近隣県の多くの乳業工場が受け入れ停止しており、日量で最大680トンの生乳を処分せざるを得ない状態に陥っている。

(土木部)

全面通行止めが52箇所、片側通行止めが7箇所あり、支援物資の搬入等に御迷惑をおかけしている。

特に、阿蘇方面へ直接行ける国道57号が、あのような状況のため、かなり遠回りすれば行けるようになった。一番近い道路は、農林水産部が所管しているグリーンロードを通るルート。

応急危険度判定は、本日の地震を受け、なかなか実施がし辛い状況であるため、特別に支援を要請されたところに回っている。

(企業局)

所管の3ダムについては現在のところ異常なし。

(教育庁)

小中学校、県立学校すべて避難所として開設している。

一番心配しているのが、本日の夜から雨が降るとのことで、多くの方が避難所に来られているので、体育館に収容できずに運動場に収容している問題がある。

これに対しては、安全確保のため、近くの避難所を案内等している。
他の問題として、仮設トイレの数が絶対的に不足しているのも、仮設トイレの確保について配慮をお願いしたい。

(県警本部)

救出救助の関係では、これまで西日本の警察を中心に18府県、1,000人余りの応援をいただき救助活動にあたっている。また、南阿蘇については、自衛隊の応援をお願いしているところ。現在まで、140名の方々を救出・救助している。

今後は東日本の警察にも応援をお願いしているため、中部、あるいは関東の警察部隊も到着する。

パトカーについても、九州管区内の警察に派遣をお願いしている。今後は23台のパトカーが1ヶ月程度、パトロールを強化する

(西部ガス)

約10万5千戸を供給停止

(九州電力)

8時現在で18万個ほど停電している。

地域別の内訳については資料記載のとおりであるが、かなりの広範囲に及んでいる。復旧の見込みについては現在調査中。

原子力発電所の状況については、川内原子力発電所1号機、2号機ともに安定した運転を継続中。

玄海原子力発電所については全機停止中。それぞれプラントの状態監視及びパトロールを実施し、川内、玄海それぞれ異常は発見できていない。

(LPガス)

地域によってはボンベが倒壊しガスが漏れているところが見受けられるため、順次、LPガス販売店の方から応急処置を行ってもらっている状況。

4 政府現地対策本部からの発言

(内閣府)

質問をよろしいか。

教育委員会の仮設トイレの件について、早急に国の方に要請を行う。今日の話であれば、若干時間がかかるかもしれないため、確保する方法を考えなければいけないが、県も県のルートを通じて要請できないか、災害救助法の担当課で検討できないか。

(健康福祉部)

簡易トイレについては、2万個を現在国の方をお願いしている状況。

また、毛布であるとか、物資をお願いしている。それについては、国と調整をして、どこに運んでもらうか、ルートをどうするか等を調整する。

(内閣府)

それは今日入ってくるのか。

(健康福祉部)

夜の10時に入ると聞いているが、2万個全部入るのかとか、どういうものが入るかということについては再度確認する。

(内閣府)

そうであれば、それに併せて周辺の県にも要請をした方が良いと思う。

(健康福祉部)

他県等にもお願いしているが、交通事情もあるため、いつ入るかということは現在確認中。

(内閣府)

避難所の関係で、全県的に避難所を開設していると思うが、もし、他の市町村で避難所をさらに開く余裕があれば、例えば、避難所にめいっぱい受け入れてしまって、非常に大変な状態になっている避難所もあるとテレビで報道されているが、もし、そういう状態であれば、他の避難所に回していくという手もあると思う。各市町村で、余裕があるところに避難所を作ってもらって、そこで人を回していくと。そういうやり方をしても良いと思う。

(健康福祉部)

避難所についても、担当者をはり付けて、避難所の設置状況はどうかと、現状はどうかとか、どれくらいの物品が必要なのかとか、そういったことを現在調査中。

今お話を受けた件についても、今後検討していきたいと思う。

(内閣府)

市町村は責任感を持って、自分のところの住民は自分のところでどうにかしようと思っているかもしれないが、今回は特別な対応が必要になると思うので、県が頑張っていて、出て行って調整いただければと思う。

5 国等の対応状況

(消防庁)

本日1時25分に発生した地震の後から、非常にたくさんの災害が発生している。

119番通報が取りきれないくらい発生し、その対応に追われた。

熊本市消防局でも対応し、緊急消防援助隊も今現在では約530隊2,000人が生き埋め等の災害対応にあたっている。

被害については、主に熊本市、益城町、阿蘇周辺に固まっている状況。特に阿蘇周辺については道路が分断されているところもあり、なかなか被災地に行き届かないため、今後はそういったところにしっかり対応していきたい。

こういった災害のため、自衛隊や警察との連携は非常に大事になってくる。連携するために、調整本部等を作り、これらの防災機関との連携を密にし、それぞれの活動に無駄がない、齟齬がないことを目指してしっかり連携している状況。

(自衛隊・第8師団)

現在活動しているのは、お手元の資料では約3,500となっているが、現在は8,100名となっている。

活動内容については、西部方面總監部から説明する。

(自衛隊・西部方面總監部)

人命救助については約630名、阿蘇地域250名、宇城地域約105名、益城地域約80名、嘉島約40名、菊陽町約150名をもって活動中。

また、生活関連支援については、給水、給食、入浴等を実施している。

併せて、海上自衛隊の状況については、呉に停泊している輸送艦「おおすみ」を八代に回航し、物資輸送準備を予定している。

また、病院機能移転に伴う患者移送に伴う支援については、現在、健軍駐屯地（熊本）についても断水等の被害がでている。経由地としては受け入れが難しいとのことであるため、福岡にある福岡病院への移送について調整中。

（警察庁）

他県からの派遣部隊は、中部、関東等管区等からの増援をすることになり、昨日の約1,100名体制から、約1,800名体制になると思われる。

また、制服警官の派遣もすることとなり、防犯警備に努めたいと思っている。

（気象台）

本日の21時頃から雨が降りはじめ、一番強くなるのが明日の朝3時から6時の間、所によっては1時間に40ミリ程度の激しい雨を予想している。

昨日から揺れの強い地域で、土砂災害警戒情報の基準を下げて運用をしている。下げているということは警報が出やすくなるが、土砂災害が発生しやすくなっているといえる。厳重に警戒をお願いしたい。

地震については、今朝の1時25分に、14日の21時26分よりもマグニチュードが大きい地震が発生したことによって、本日1時25分の地震が本震で、その前の地震は前震という扱いになっている。本震の後、余震の回数は増えており、200回を超える震度1以上の地震が起こっている。1時以降、1時間に10回以上の震度1以上の地震が発生しているの、今後も、1週間程度は震度6弱程度の余震があるものと予想しているので気を付けていただきたい。

それから、本日8時30分に、阿蘇山が噴火したという情報が9時に出たが、火口上100mということで、火山灰が多少とんだという程度の噴火。大きな噴火につながるような兆候は見られていない。

（国土交通省）

河川については、白川について25箇所、緑川で47箇所、堤防のひび割れや法崩れが発生している。

雨が降ることなので、シートをかけたり、セメントを注入したりして、雨が入りにくくなるような応急処置がほぼ完了している。さらに、巡視を強化することになっている。

道路状況について、土木部の資料にもあるとおり、九州自動車道については、植木インターから久木野インター間で通行止め。

緊急車両に限っては植木インターから益城熊本空港インターまでは、事前にNEXCOに連絡は必要だが、通行可。

（海上保安庁）

阿蘇の東海大学の生き埋めの関係で、海上保安庁のヘリ1機を東海大学のグラウンドに駐機させ、負傷者等の搬送等に備えている。

（国土地理院）

国土地理院では、災害状況の早期把握のため、空中写真の撮影を行っている。

本日朝から撮影をしており、撮影しているのは菊池地区、熊本地区、宇城地区、西原地区、阿蘇地区の5地区。

これとは別に、ドローンを使って低高度の詳細な被災状況の調査を南阿蘇村に職員を派遣して行っている。

撮影した結果については、準備が整ったものから順次国土地理院のホームページにアップしていく。最も早いものは本日の夕方から公開ができると考えている。

6 政府現地対策本部長の発言

(松本副大臣)

お疲れ様でございます。眠れない夜を2回過ごした。そして、今日の夜は雨が予定されている。厳しい状況が続くことを実感している。皆様方には是非認識を新たにさせていただきたい。7.3というマグニチュードの地震は、我が国の歴史に残る、最も大きい地震のひとつ。

したがって、被害も昨日までの状況とは全く違う。また、復興・復旧に向けた長い道のりが始まる。

まず、覚悟をもっていただきたい。そのうえで、今日からの3日間、初動体制をどう構築していくか。これが1か月後、2か月後、1年後に大きく影響してくる。そういう思いを持って取り組んでいただくようお願いする。

その上で、3日間寝ずに働く判断が鈍ってくる。是非、それぞれのセクションで交代をしてきちんと、頭がはっきりする程度の睡眠は十分にとっていただきたい。

また、食事、これが十分でないように見受けられる。

街に行っても、どこにも商品が置いてない状況。食べられるものは食べられる時に食べて、取れる休憩はしっかり取って、任務に邁進いただきたい。

今日やるべきことはとにかく人命を救うこと。

それをするために、道路対策は急いでいただきたい。

国土交通省には特にお願いする。

それぞれのセクションが力の限りを尽くしている。お互いに気持ちを開いて、相談をしながらできることは全部やるんだ、そういう思いで取り組んでいきたいと思う。

7 県災害対策本部長の発言

(蒲島知事)

一昨日14日の震度7に続いて、本日、震度6強の地震が相次いで発生し、県内各地で、非常に大きな被害が発生している。

県警の情報によると、一昨日からの地震により、現時点で15名の尊い人命が失われております。現在も、まだ行方不明者がおられ、救出に全力を上げているところ。

引き続き人命救助を最優先に、全力を尽くしていただきたい。

また、14日の地震発生から30時間以上が経過し、また、度重なる地震により、被災者の方々の不安はますます大きくなっていることと思う。被災者の支援にも全力を尽くしていただきたい。

なお、今後も大きな余震を警戒する必要がある。加えて、本日夕方には、雨も予想さ

れる。そのため、土砂災害危険区域など危険な地域にお住まいの皆さんは、出来る限り安全な場所に避難していただきたい。

引き続き、行政・民間、さらには国・地方の垣根を越えて、ここに参集していただいている皆さん、さらには県民の皆さんと一丸となってこの未曾有の危機を乗り越えていきましょう。

宜しくお願いします。

(以 上)

第4回政府現地対策本部会議・第7回熊本県災害対策本部会議 議事録

日時 平成28年4月16日(土) 16:00～

場所 県庁新館8階 職員研修室

1 地震の状況

(別途気象台から報告)

2 被害の状況

死者27人(警察情報)。市町村からの報告では32人。

行方不明者6人。重傷者184人。軽傷者784人。

家屋被害について、全壊90棟。半壊145棟。一部破損630棟。

他県からの支援等については、資料のとおり。

東海大学農学部の孤立者については、海保ヘリにより要救助者を大分県の病院に搬送。

なお、避難者数については、阿蘇地域の市町村数は把握できていないということであり、本来の避難者数はもっと多い。

3 県等の対応状況

(総務部)

県庁の避難者数は480名程度。新館地下の食堂も開放。

県立大学は、1,400名程度。学生が炊き出しの対応実施。私立高校も受け入れ増。

(企画振興部)

JRは引き続き運転見合わせ。

(健康福祉部)

避難所への物資については、サントリーから水500ml10万本提供有。県パン共同組合からは3万個のパンを自衛隊の協力を得て発送。

水、食料については、内閣府の協力を得て順次対応中。

(環境生活部)

水道施設の被害状況について、本震以降に続く余震の影響でいろんな不具合が起こっている。断水戸数3万3,600戸はほとんど変わっていない。

(商工観光労働部)

水約30万本確保。輸送については、トラック協会だけでなくヤマト運輸にも協力を得ている。災害協定以外で、ワコールさんから下着を1000枚単位で提供可能との申し出をいただいた。

(農林水産部)

大切畑ダムについて、自衛隊及び農水省の協力を得て排水ポンプの設置準備を進めている状況。

立野地区の大規模山腹崩壊だけでなく、南阿蘇の新所地区等でも土石流発生。

外輪山の山腹崩壊については山間部にとどまっており被害なし。

生乳廃棄については、早ければ明日にも乳業工場の受入れが一部復旧する見込み。

(土木部)

海上自衛隊の輸送艦と護衛艦が広島から来るとのことであり、八代港で受入れ調整中。
道路交通止めについては、鋭意対応中ではあるものの、新しく判明しているため、増えている状況。

57号が通行止めのため、自衛隊、国交省の協力を得て道路啓開を行い、南阿蘇を通行するなど回路を準備中。

(教育庁)

県立高校で避難者を受け入れているが、断水対応のため、プールの水を活用するなどの対応実施中。トイレは足りなくなる可能性あり。

(県警本部)

本日午後関東及び中部からの応援あり。南阿蘇を中心に捜索活動実施中。これまで、おおよそ150名の方の救出を行っている。

4 国等の対応状況

(内閣府)

道路不通箇所等が多く、被害も甚大であるが、物資の供給には道路復旧が必要。関係者の復旧対応への協力をお願いする。

(消防庁)

死者数について、警察と市町村で違っており、災害対策本部としての数値とする必要があることから、後程、県、警察と調整させていただきたい。

消防ヘリで西原村小森地区で26名救出。南阿蘇村の方から計44名の方をヘリで救出。病院間搬送6件。別途鹿児島県ヘリ活動中。

(自衛隊)

14,100名を動員して救助活動等実施中。

(警察庁)

他県応援として、中国・近畿部隊の増員と中部・関東の部隊の新規派遣。自動車警ら部隊による防犯活動実施中。

(気象台)

天草及び阿蘇で最大風速20m/sという警報級の予想。

土砂警の基準を7割に引き下げたが、中小河川の洪水についても同様とした。堤防破損等があったため。

余震継続中。発生頻度は減っていない。

(国交省)

国道3号線の熊本市清水松崎の跨線橋の被害であるが、本日を目途に全面開放予定。

(海上保安本部)

航空機2機待機中で要請があれば対応する。三角港にて巡視船2隻による給水支援開始。

(九州運輸局)

旅客の緊急輸送について、バス、タクシーも活用可能だと思うので相談いただきたい。
車検期間の延長も検討している。

(九州電力)

129,000戸の停電。(最新情報15時現在)
復旧見込みは立っていない。現在調整中。

5 政府現地対策本部長の発言

(松本副大臣)

国土地理院でまとめたデータは災害対策本部に提供して欲しい。

今日、熊本市長及び避難者と意見交換を行ってきた。避難者の方は、市町村がキチッと対応しているとの意見であった。皆さんの対応が評価されているものと思う。

一方で3日目の夜を迎えることとなる。皆さん方お疲れのことと思うが、正念場だという思いで頑張っていたきたい。

熊本市民病院に行ったが、すべての患者を別の病院に搬送できて、院長が安堵したとのこと。一部の施設で外来対応したいとのことであり、心のケア等の依頼をした。

熊本市役所では、100人くらいの人達が、水を待っていらっしやった。水が不足していることを実感した。

コンビニもほとんど閉まっており、開いていても物が全くない状態。コンビニの社会的責任から早急に再開するようお願いしたい。

自宅の後片付けについては、高齢者だけでは対応できないのでボランティアの活用をお願いしたい。

6 県災害対策本部長の発言

(蒲島知事)

一昨日14日の震度7に続いて、本日1時25分と3時55分に震度6強の地震が相次いで発生し、県内では、非常に大きな被害が発生している。

これまでの地震により、27名の方々の尊い人命が失われている。現在も、まだ行方不明であったり、道路等の寸断により集団で孤立状態にある方々もおられ、救出を待っている状況。

引き続き人命救助を最優先に、全力を尽くしていただきたい。

また、14日の地震発生から36時間以上が経過し、度重なる地震により、被災者の方々の不安はますます大きくなっていることと思う。被災者の支援にも全力を尽くしていただきたい。

また、大きな余震を警戒する必要がある。同時に、現在、大雨洪水などの注意報が発令されている。これまでになく地盤が緩んでいる状況にあり、県と気象台は土砂災害警戒情報を速やかに発表することとしている。

皆さんも出来るだけ早く避難所など近くの安全な場所へ避難して欲しい。

安倍首相の記者会見からも明らかなように、政府からも全面的な協力をいただくことになっている。

行政、民間、さらには国と地方の垣根を越えて一丸となってこの未曾有の危機を乗り越えたい。

(以上)

第5回政府現地対策本部会議・第8回熊本県災害対策本部会議 議事録

日時 平成28年4月17日(日) 11:30～

場所 県庁新館8階 職員研修室

1 地震の状況

(別途気象台から報告)

2 被害の状況

死者40人。

行方不明者が南阿蘇村で11人。重傷者202人。軽傷者835人。

避難所数855カ所。避難者数183,882人。

様々な県から48人の派遣を頂いている。その他申し出も多数あっている。

消防、警察、海上保安庁、自衛隊からたくさんの方々の救助・救出をいただいている。

3 県等の対応状況

(総務部)

各県から人的支援を頂き、また、特に消防、自衛隊、警察におかれても県域を越えて御協力頂きありがとうございます。

それに繋がる次の復旧・復興に向けて、九州山口災害応援協定に基づき本部長である大分県知事が全体を構成する形で九州各県から、事務職員や技術職員の支援を始めたいと思っている。については、本県では、県庁、市町村からのニーズ聴取を本日から始めている。各部局では、ニーズを積極的に総務部に上げていただきたい。さらに、足りないところは、全国知事会から連携して対応して頂くことになっている。

県庁舎内での避難者の状況について、当初、480名程度であった方々が、今、200名ちょっとという形になっている。

県立大学では、1,400名の避難される方を受け入れ、学生が自ら炊き出しをするなどしている。

私立学校における避難の受入についても、2校さらに追加し9校体制になっている。

私立の幼稚園等においても安全の確認が取れたところから、再開、開園を始めており、また、正式な開園でなくても自由登園という形で親御様の負担を少しでも軽くする方法で前向きに再開に向け動きを始めている。

(企画振興部)

交通に関して、熊本電鉄等が順次運行開始のところが出てきている。JRについても復旧に全力をあげられているが、新幹線の脱線等で技術的に難しいところがあって、もう少し時間がかかる模様。

航空機関係で、空港ターミナルビルで建物被害があるので、運航が停止しているが、どんな形であれば運航可能なのかといったことについて相談が進んでいる。

(健康福祉部)

DMA Tについて、243チームということで大幅に増員していただいている。そこ

での活動について、熊本市内の倒壊の恐れのある病院の入院患者を移すための支援や人工透析患者等の医療支援等を行っていただいている。DMATの活動拠点について、県内を3つに分け、熊本赤十字病院の拠点は熊本市以南の地域の医療支援、川口病院については県北、阿蘇については、交通網等の問題があり、大分県のDMAT活動拠点が対応していただくこととしている。

また、報道されている国におけるプッシュ型支援の受け入れ体制について、本日、健康福祉部、商工観光労働部、内閣府、日通、ヤマト運輸さんと協議しているところ。

避難所の住民の方の健康、衛生状況、メンタル面のケアも必要である。現在も保健師等を派遣しているが、九州各県からも応援の申し出もあっているので、すぐに対応していきたい。

(環境生活部)

水道施設の状況について、自衛隊の給水車を始め、福岡市、久留米市、唐津市等から給水車の派遣を決めている。

熊本市で漏水調査中ということであるが、今朝から健軍地域で試験的に水道給水を開始した。順次、地域ごとに復旧次第、給水の方向ということで鋭意、漏水調査、保守をしながら対応をされている。

し尿、ゴミ処理施設について、地震の影響でかなり破損しているもので、こうしたものに対応しながら災害廃棄物処理に対応していく。

国の災害廃棄物処理支援チームD. Waste-Net が派遣されており、益城町等に入って助言を頂いている。

(商工観光労働部)

水でいうと、30万本のペットボトルを概ね運搬済み。このシステムは、そろそろ限界、今、国の方からの90万食の分が既にあるので、これをどう運ぶかということについて今まで協議中だったが、これをしっかりやりたい。

(農林水産部)

農業用ため池の大切畑ダムについて、現在、水位低下を実施し、満水位からマイナス最大4mまで水位が低下したため、かなり危険は減ったものと考えている。

山腹崩壊の状況について、南阿蘇では、山口旅館周辺、京都大学火山研究センターがある山で山腹崩壊が起きている。ペンション火の鳥の上部で山腹崩壊が発生している。

酪農家の生乳廃棄について、本日中にも工場等が復旧する見込み、最小限の被害に抑えられる見込み。

(土木部)

建設業協会等と一緒に復旧に頑張っているが、なかなか道路の方が、どちらかというと増える方が多くて、現状では84カ所の全止め、片側通行止め6カ所という状況。

(教育庁)

今回の被災者のそれぞれの学校での受け入れ状況について、特別支援学校17校、高校54校について今の状況について掲げている。食料、水、トイレ、毛布等について、○とか△、×とかあるが、○は足りている、△は不十分、×はないという状況であったので、これについては、熊本市と話をし、対応していただくよう、昨日の夜の時点で

話ができている。

(県警本部)

現在、全国32の都府県警察から、概ね1100・・・の応援を頂いて捜索にあたっている。南阿蘇の方で、数名、行方不明者を把握しているので、重点的に捜索を行っている。

県外から、様々な支援物資の搬入が行われているが、その中で九州自動車道については、植木インター以南が通行できない状況になっているので、植木インターを降りるところで渋滞が発生している。緊急車両、支援物資を運んだ車両、一般車両の選別がされずに滞留している状況にあるので、現場に警察官を配置して、優先度に応じて、選別して植木インターに下す措置をとり始めている。

植木インター以南は、道路管理者の方で橋などの安全点検が行われている状況であるので、まだ、緊急車両も通っていない。早めに安全点検をお願いしたい。

4 国等の対応状況

(内閣府)

今、避難所に多くの方々がいらっしゃるが、水と食料をなるべく早く届けるように総理からも強く指示を受けている。物資の輸送については、当初、熊本県の方から要請を受け、物資の手配をしてきたが、国として、3日分の物資については輸送する必要があるとの判断のもと、準備を進めている。一部については、輸送が開始されており、本日中に物資が一部届くと聞いている。これらの物資がなるべく早く避難所まで届くよう関係者一同協力して対応していきたい。

(消防庁)

冒頭での死者数の報告について、県警の数字で41人、市町村からの取りまとめの数字が40人という数字があったが、市町村取りまとめは9時30分時点であり、県警の方は会議が始まる直前まで取りまとめていただいたものであるため、齟齬はない。

災害対応体制については、合計約550隊、約2,000名での対応を行っている。活動状況については、火災7件、救助については167名、救急388件となっている。

今、熊本市内で断水になっており、消火活動に支障を来す恐れがあるので、熊本市消防局において対応いただいているところであるが、緊急消防援助隊として、神戸市消防局、愛媛市消防局から、海から最大2キロぐらい水を送水できるスーパーポンパー2台を設置して、市内における火災に対応している。

※ 会議終了時に、スーパーポンパーについて、神戸と愛媛市から持ってきたと説明したことについて、大阪市消防局と堺市消防局と枚方寝屋川消防組合消防本部からの間違いと訂正あり。

(自衛隊)

本日の態勢は資料のとおり。記載が漏れているが、航空機・・・ヘリ約70機の待機態勢をとっている。活動の種類としては、人命救助を第一義とし、併せて、生活支援、物資輸送支援等を行っている。

(警察庁)

本日から、九州各県の自動車警ら部隊を出動させている。

(気象台)

地震の概要について、前回報告と違うのは、4月15日0時3分発生の震度6強について、取り上げていなかったのが今回記載している。

速報値、暫定値、確定値というのがあり、速報値というのは、いわゆる津波予報をするためにざっくりと決めるもので、暫定値は、半日から1日程度で決めるもので現在暫定値になっている。確定値は、最終的に決めるもの。

現在、余震が410回起きている。引き続き6弱程度の余震の可能性があるので注意していただきたい。

気象について、昨日、21時から6時までの間で、五木で46ミリ、阿蘇山で40ミリ、予想より幸いに少なかった。

予報では、今日は晴れ。明日、昼前、所により雨と予報しているが、降水量についてはそれほど多くはならないと考えている。

阿蘇山について、昨日、8時30分に小規模な噴火。その後、小規模な噴火が続いていたが、昨日夕方、18時15分で一旦停止し、今、噴火は継続していない。

(国土交通省)

道路の通行止め関係で、国道57号の立野地区については依然通行止めが続いているが、その箇所以外の国道3号、57号については、全て通行可となっている。

九州自動車道について、昨日、植木から益城熊本空港間は緊急車両は通行可と伝えていたが、今朝から、緊急車両も通行不可となっている。原因、何時頃通行可能になるかは確認してご報告したい。

(海上保安本部)

巡視船艇、航空機による即応体制としている。航空機については4機即応待機としているので、搬送等の要望があれば対応したい。

三角港、熊本港において巡視船による給水の活動を始めている。その他、入浴、食事の提供等の要望があれば、要請をお願いしたい。

(九州電力)

停電の状況について、11時現在の最新の情報が入っているので、それに基づいて報告したい。11時現在で7万3千3百戸程度が停電。復旧の見込みについて、比較的被害の小さかったところについては、4月17日夜遅くまでに復旧の見込み。

阿蘇の方に送っている送電線の鉄塔が使用不可となっているので、現在、一宮、高森地区において、全国の電力会社から発電機車を配置し、発電機車による発電を開始する予定。一部、開始している。

(熊本市上下水道局)

現在、熊本市の上水道は、国、県との連携のもと、4月18日中の100%復旧を目標に懸命に努力を進めている。現在、60%程度復旧している。

(西部ガス)

熊本地区の10万5千戸のお客様に対し供給停止になっている。復旧戸数は、現在、ゼロ。復旧の見込みは、もうしばらくして、お知らせできる状態と考えている。

(LPガス)

県内50万世帯お客様がいらっしゃって、販売店が550社あり、被災している販売

店もあるが、被害のない地域は、メーターによって遮断しているものが多数であるので、お客様自身でメーターを確認して復旧できる状態となっている。販売店が被災している所は、避難所から順次回って対応しているところ。

5 政府現地対策本部長の発言

(松本副大臣)

LPガスさん、被災者本人が直せるというものなのか。

(LPガス)

メーターで止まっているものは、お客様が、復旧ボタンを押して直せるものが多数ある。

(松本副大臣)

多数とはどれくらいなのか。8割ぐらひはありそうか。

(LPガス)

数字的にははっきり分からない。

(松本副大臣)

できるだけ確認を急いで欲しい。

それから、西部ガスさん、見通しが数日かかるということだが、オーダーとしては、1カ月のものなのか、2、3週間で対応できるものなのか、そこに暮らしている方がいつからガスが使えるようになりそうだな、というイメージが湧くような方向はまだ示せないのか。

(西部ガス)

4月中の全戸復旧を目標として取り組んでいる。

また、この地区に住んでいる方が、どのくらいで、ということについては、前日くらいに分かるので、「明日、この地域をガスを空けに参ります。」というのを、広報等を通じてお知らせしたい。

(松本副大臣)

前日ではなく、この地域はいつ頃回るというのを、この会議で計画的に示して欲しい。それが長くかかるのであれば、全国から、いろんなガス会社からの応援でも、人手は出させるから。

(西部ガス)

全国のガス会社から、明日、本体が到着予定。明後日から復旧作業開始予定。

(松本副大臣)

被災された方は、電気、水道、ガスが復旧出来ないために家に帰れない。帰ってもお湯一つ沸かせない。外で食べ物を買わないと食べるものがない状態。ガスは命なのだから、復旧見通しをもう少し分かりやすく示してほしい。

(西部ガス)

ご報告の仕方を検討させていただきたい。

(松本副大臣)

よろしくお願ひしたい。

それから、食料について、総理大臣が、今日中には被災地のそれぞれの避難所に届け

ますという記者会見をやっていた。また、官房長官から今日70万食届けると電話があった。今日の夜、どこまで避難所に届けられるかが一番の課題になってくると思う。そこで、3～4か所に国から届くと思うが、それが何時に届くかを、進藤参事官、大至急、民間の輸送会社に依頼をしているはずなので、何時頃届けますというのを確認して、集配所からは県が運ぶということなのか。

(健康福祉部)

今、正にそのことについて、関係部局と業者等で打合せをしていて、例えば、直接、国から業者を通じて市町村にもって行った方がスピーディーと思うので、そういうやり方も含めて早急に話し合いをしている。

(松本副大臣)

早急にまとめてもらって、今日、数カ所の避難所にしか届かなかったりすると大変なことになるので、8割、7割方届くようになるよう全力を上げていただきたい。

また、例えば、県庁で手作業で重い水を運んでいた。フォークリフトを民間に手配して欲しい。明日から、民間の会社が配送をやるのであれば、この会議に出るよう言って欲しい。

それから、官邸では、ガソリンを集中的に届けることになっている。実際にスタンドに届いたかを確認して報告して欲しい。

官房長官によると、コンビニ各社の社長を集め、とにかく熊本に集中的に食料を出すようお願いしたとのことであったので、明日もコンビニが開いていなかったらきちっと返して欲しい。

トイレについて、どこに幾つ足りない、トータルで幾つ足りないという報告をして欲しい。ちゃんと対応するので、できるだけ早くお願いしたい。今朝、自衛隊にお願いをし、島尻大臣が調査したところ、九州に少なくとも100個以上の簡易トイレがあるということであった。

想像力を働かせて、これは足りなくなる可能性があるというものを検討し、まとめて遠慮なく言って欲しい。

6 県災害対策本部長の発言

(蒲島知事)

これまでの度重なる地震により、既に40名の方々の尊い人命が失われており、御家族のことを思うと言葉がありません。行方不明の方も11名おられます。引き続き人命救助を最優先に、全力を尽くしていただきたい。

また、14日の地震発生から60時間以上が経過し、被災者の方々の不安はますます大きくなっていることと思う。大きな余震を警戒しつつ、被災者の支援にも全力を尽くしていただきたい。

昨夜は、大雨洪水などの警報が発令された。これまで以上に地盤が緩んでいる状況にあることを念頭に、新たな被害が発生していないか確認をお願いしたい。

また、現在、855箇所の避難所で、約18万人の方々が避難生活を送っておられる。県としても、内閣府や自衛隊をはじめとする国の機関や他の自治体、さらには民間の御支援を受け、水、食料、毛布などをお届けしている。

このような厳しい状況の中、国主導により、避難者10万人分の水、食料、さらには紙おむつやトイレトペーパーが届けられている。また、熊本市からは、明日中には上水道が100%復旧できるという、とても明るいニュースも届けられている。

このような取組みを通じて、行政、民間、さらには国と地方の垣根を越え、一丸となって今回の未曾有の災害を乗り越えて参りたいと思う。

県民の方々も心を一つにして助け合い、一日も早い応急復旧に御協力をお願いしたい。

(以 上)

第6回政府現地対策本部会議・第9回熊本県災害対策本部会議 議事録

日時 平成28年4月17日(日) 16:30～

場所 県庁新館8階 職員研修室

1 地震の状況

(別途気象台から報告)

2 被害の状況

死者41人。

行方不明者が南阿蘇村で11人。重傷者201人。軽傷者838人。

住家被害等について、全壊400棟。半壊1262棟。

避難所数723カ所。避難者数110,816人。

南阿蘇村、西原村では避難指示を継続中。熊本市以下で避難勧告を継続して発令中。

九州関西広域連合、その他の地域の各県、政令指定都市等様々なところから多くの職員の方の支援を頂いている。

消防、警察、海上保安庁、白衛隊トータルで1,092人の救助をいただいている。

3 県等の対応状況

(総務部)

熊本市内での生活面での支援的側面での避難者の受入は、水道が回復したこともあって相当減ってきている。

(企画振興部)

バス関係で、九州産交グループと都市バスが、一部を除き通常運行になっている。

(環境生活部)

水道関係で、熊本市で一部世帯、試験的給水ということで13万5千戸分が減っている。

廃棄物処理施設関係で、故障等があり、そこら辺の対策に力を入れている。

(商工観光労働部)

現在、健福を中心に物資の手配の新しいシステムを構築中。大手の物流業者と一緒に拠点を作って避難所まで送るところを構築中。

(農林水産部)

午前中の報告事項から事柄の追加等はない。

引き続き、取組みを継続中。

(土木部)

農林水産部と同様。

(教育庁)

被害状況については、県立高校が1校、被災が増えている。

公立学校、市町村の小中学校でも少し増えている。

休校状況について、明日から以降、1週間の休校状況、確定しているもののみ出し

ている。19日以降は状況に応じて変わってくる。

県立学校の避難状況について、県立学校の避難者の方も徐々に減っている。

(県警本部)

捜索の関係で、行方不明者がいらっしゃると思われる南阿蘇の方に部隊1,800名を投入して捜索にあたっているが、現在のところ発見にはいたっていない。

県外からの支援物資などが熊本市内に届くようになって、九州自動車道、植木インターで優先すべき車両を選別して、植木インターから降ろしている。それから、降りてから、国道3号線について、下り方向が円滑にながれるように信号の整理を柔軟にやっていて、今、概ね、下り方面は円滑に流れている。

(九州電力)

14時現在、71万9千戸が停電。全力を挙げて復旧に取り組んでいる。阿蘇市、高森町、南阿蘇村、山都町の一部を除いて、本日中の復旧を目指している。益城町の方も本日の復旧を目指している。

なお、阿蘇市、高森町、南阿蘇村、山都町の一部については、送電線周辺で大規模な土砂崩れがあり、鉄塔の使用が不可能となっている。現在、全国の電力会社から、既に78名、17台の発電機車を派遣していただき、順次、電力供給を行っている。今後も、さらに合計で255名と56台の発電機車を派遣して頂くこととしている。

(LPガス)

本日調査したところ、阿蘇市、高森町、南阿蘇村、西原村、御船町、嘉島町、益城町、こちら被害がひどかったところは、詳細なところがはっきりしていないが、他の地域については、全域ほぼ100%復旧しており、割合的には、およそ95%が県内で復旧している状況。

(健康福祉部) ※海上保安庁の後に説明

災害時保健師派遣について、県と厚労省を中心に各県の方から県・市チーム、・・・医師、薬剤師・・・、早いところでは、本日から現地に入っらっしゃって、5日間ほどローテーションで支援していただくことになっている。県、厚労省、市町村と連携し被災地の避難所におけるケア等についてきめ細かく対応していきたい。

4 国等の対応状況

(内閣府)

本日、午前中の11時半から、第7回目の政府の方での非常災害対策本部を、総理、官房長官出席のもと開催している。夕方、18時30分から、第8回を開催する。

(消防庁)

消防の活動については、約560隊、2,000名の規模で活動を行っている。南阿蘇村の北部・南部、熊本市の北部・南部、益城町と西原村において、引き続きローラ一作戦を展開していきたい。

(自衛隊)

約2万名の態勢で人命救助、生活支援、物資輸送支援等を行っている。ヘリについても約70機の態勢で即応態勢を実施しつつ、物資輸送等を行っている。

(警察庁)

他県からの増援について、女性警察官について、九州各県から合計20名の特別派遣を行うこととしている。任務については、被災地の避難所を訪問しての各種相談業務、防犯指導等の避難者のケアを行っている。

また、全国からの救援物資について、鳥栖に集積して、九州自動車道を使って各避難所等に輸送するというふうに向っている。そのため、高速道、一般道について、渋滞を回避するため、福岡県警、熊本県警と調整し、パトカー等による誘導によって速やかに輸送するというのを準備している。

(気象台)

明日の天気の見通しについて、熊本県南部を中心に午前中所により雨。雨量は5ミリ未満を見込んでいる。

余震回数は、震度1以上が15時現在で444回と少し増えた。余震への警戒をお願いしたい。

(国土交通省)

関係機関と連携して対応して参りたい。

(海上保安庁)

熊本港で巡視船2隻による給水、携帯電話等への充電、炊き出し等を行っている。八代港で入浴等の支援を行っている。

航空機については、4機、即応待機しているが、本日の15時頃、南阿蘇においてビニールハウス内で3名の避難者がおり、そのうち1名が負傷しているとの情報を受けて現場で確認を行ったところ、発見には至らず、その後、通報者により連絡がとれ、確認がとれている。

(警察庁)

ガソリン等の不足について、福岡、八代に輸送障害があり、そこに十分な燃料はある。いかにそれを熊本の必要な所に送るかという問題になっている。タンクローリー等を優先的に入れていただく等の手配をしていただければ、かなりスムーズにいくのではないかと。今、県と調整しており、緊急を要するものについてのリストアップをしてもらっている。その辺とうまくつなぎながら対応していきたい。

また、民需のガソリンについても東京の対策本部の燃料担当、熊本の石商、熊本の石商が対応できない時には福岡の石商の方で対応するといった窓口を作っているの、そういう声があれば私どもに言っていただければ対応したい。

コンビニの会社の方から要望があり、おにぎりやパンを十分に準備しているが、熊本の中まで送り込むのが大変な状況になっている。先ほど、交通の関係で大分緩和されたと聞いているので、今後期待していきたい。

5 政府現地対策本部長の発言

(松本副大臣)

皆さんお疲れ様です。日を追うごとに本部のチームワークが上がってきていると感じる。

今日は、自衛隊の第18師団長、西部方面本部長にも激励に来ていただいたところ。地震被害については、日を追うごとに亡くなられた方の数も増え、二日目には20名

を超え、本日は40名を超えてしまい、この三日間本当に悔しい思い。

こんな中、九州電力が明日中にも電力を復旧させるとしており、心から感謝。

また、食料が不足していることに対し、総理の指示により90万食を用意し熊本に向かっているところ。道路事情が悪い中、運送事業者のご尽力で、第一陣がこれから夜に着く。どこまで避難所に届けられるか、皆頑張っており感謝の気持ちでいっぱい。被害者の捜索などに当たっている自衛隊、消防、空から被害の確認をいただいている国土地理院や林野庁、道路の復旧に当たっている国土交通省など、皆さん全力で対応していただき感謝。

この三日間、県庁のマットの上で寝泊まりするなど、大変疲れているところだが、それでも引き続き全力を挙げて、頑張っていたきたい。

6 県災害対策本部長の発言

(蒲島知事)

これまでの地震により、既に41名の方々の尊い人命が失われており、行方不明の方も11名おられる。14日の地震発生から65時間以上が経過しているが、引き続き人命救助を最優先に、全力を尽くしていただきたい。

被災者の方々の不安はますます大きくなっていることと思う。余震には十分警戒しつつ、被災者の支援にも全力を尽くしていただきたい。

また、現在723箇所の避難所で、約11万人の方々が避難をされている。また、水道、電気、ガスがストップした自宅においても、実質的な避難生活が3日目を迎えられ、今後は支援物資の提供やライフラインの回復など、生活支援への取組みがより重要となってくる。午前中に松本副大臣がおっしゃったとおり、国主導で食料や水、さらには紙おむつやトイレトペーパーが届けられており、感謝申し上げる。

熊本市の尽力で、明日中には水道が復旧すると聞いており、これに対しても感謝申し上げます。

自宅で難を逃れている方も含め、被災された方々の不便や不自由を少しでも軽減・解消できるよう、国と地方、行政と民間といった垣根を越え、頑張りましょう。

(以上)

第7回政府現地対策本部会議・第10回熊本県災害対策本部会議 議事録

日時 平成28年4月18日(月) 11:30～

場所 県庁新館8階 職員研修室

1 地震の状況

別添資料のとおり。

2 被害の状況

死者42名。(県警)

その他被害多数。(資料参照)

避難者数等は資料のとおり。避難者数10万人超。熊本市5万人。

3 県等の対応状況

(健康福祉部)

国のプッシュ型支援物資の第1陣がアクアドームに到着した。これから続々到着予定。早急・確実に配布できるよう運送業者含む関係機関と連携し全力で取り組む。

(商工観光労働部)

外国人旅行者への情報提供として、これまで熊本市国際交流会館を紹介してきたが、緊急災害の電話通訳サービスを2企業が開始したので、周知をしていく。

(県警本部)

避難者へのケアのため、他県からの派遣を受け女性警察官を大量投入し、相談や防犯指導を行う。

(全国知事会)

全国知事会の現地本部を昨日設置した。九州地方知事会構成県を含む18府県から、先遣隊としての職員を派遣。

(土木部)

本日12時から、熊本市から阿蘇方面への国道57号代替ルートが通行可となる予定とのこと。(資料あり)

ミルクロード(北外輪山大津線)→二重峠→菊池赤水線→57号(阿蘇)

4 政府現地対策本部長の発言

(松本副大臣)

皆さんお疲れ様です。被害の状況が見え始め、対応を細かく検討をし、必要な対応をしなくてはいけない。今日も既に官房長官と河野大臣から3～4回電話をいただき、「物資は避難所に届いているか。90万食と言ったが必要なだけいくらでも送る。きちんと避難所に届いているか確認して欲しい。県が困っているようであれば自衛隊の活用も考える」と言っていた。

気象情報では、これから強く冷え込むようだが(阿蘇地方の最低気温予想3度)、既に現地には毛布が十分に届いている。しかし、その毛布を必要とする住民に本当に行き届

いているのか、これから確認をしていかななくてはならない。

昨日、ある避難所で1万2千食を配布してきたが、その避難所ではトイレが2つしかなく、男性トイレを女性も使用できるようにしても、トイレ待ちの長い列ができています。熊本県庁には、既にたくさんの簡易トイレが届いているが、避難所までは届いていない。

必要な物資を避難所に届けるために、避難所までの道路状況だけではなく、午前と午後と夜と、避難所と連絡をとることができるような体制も整える必要がある。

DMA Tの体制も整っており、医師と看護師も十分に確保できているが、再確認が必要である。

テレビ報道では、本日中に電気・水道が復旧するとのニュースが流れており、住民はとても期待をしている。報道と大きくズレてしまうことがないようにしなくてはならない。

本日の合同会議ではガス会社からもやっと報告を受けることができたが、復旧の見通しについては報告がもらえなかった。まずは復旧までの見通しを立てる。そして、それを住民に明確に出していくことが必要である。

国交省も、JRに対し、いつまでも新幹線をそのままにせず、見通しを立てるように連絡して欲しい。

(同発言に対し、最後に企画振興部長から発言あり:脱線車両は、本日午後にも撤去作業着手予定と聞いている。今後の見通しを示せという指示は、内閣府から国交省へのもので、国交省において判断の上、JRに対し指示するという理解でよろしいか → その通りであるとの回答)

南阿蘇村での行方不明者の捜索に尽力するとともに、避難所の運営をしっかりと支えていかななくてはならない。

関係機関は、今日のためにやること、明日のためにやること、明後日のためにやることをしっかりと考え、ご奮闘をいただきたい。

5 県災害対策本部長の発言

(蒲島知事)

これまでの地震により、既に42名の方々の尊い人命が失われており、行方不明の方も9名おられる。引き続き人命救助を最優先に、全力を尽くしていただきたい。

4月14日の最初の地震発生から、すでに3日と14時間が過ぎ、被災者の方々の不安と疲労はますます大きくなっていることと思う。引き続き、余震に十分警戒しつつ、被災者の支援にも全力を尽くしていただきたい。

また、現在638箇所の避難所で、約10万人の方々が避難をされています。また、ライフラインが寸断された自宅におられる方も、実質的な避難生活が4日目に入っている。

このような中で、支援物資の提供やライフラインの回復などが着実に進みつつある。

特に、熊本市内では、電気と水道が本日中にも100%復旧できる見通しとなるなど、明るい動きもある。

さらに、スーパーやコンビニエンスストアなども、徐々に営業を再開してきている。

刻一刻と状況が変化する中、被災者の方々が今最も必要とされていることは何かを的

確に把握し、生活支援に精一杯努めて参りたい。

被災された方々の不便や不自由を少しでも軽減・解消できるよう、今後も引き続き、国と地方、行政と民間といった垣根を越え、頑張りましょう。

(以 上)

第8回政府現地対策本部会議・第11回熊本県災害対策本部会議 議事録

日時 平成28年4月18日(月) 16:30～

場所 県庁新館8階 職員研修室

1 地震の状況

別添資料のとおり。

2 被害の状況

死者42名。(県警)

その他被害多数。(資料参照)

避難者数等は資料のとおり。避難者数10万人弱。熊本市5万人。

3 県等の対応状況

(危機管理監)

被害の状況等について、市町村からの情報については11時から変更ない。これは市町村とやり取して精査中だが、市町村が避難所の運営に手が足りない状況にある。名簿を取るなどして照合を進めたい。

他機関からの人的支援についても、前回と同じ。本県職員の被災地への直接派遣については、情報収集と支援のために被害の大きかった益城町や南阿蘇村等に重点派遣している。事務的に進まないところには重点的に派遣していきたい。

(県警本部)

緊急物資輸送に伴う交通渋滞の解消のために、植木IC以外で降りるルート図を作成して、警察、運送業者等に対して広報周知を図ることを考えている。

緊急支援物資の輸送について、佐賀県鳥栖の集積地に集めて業者のトラックで各市町村に配送する。その際、高速道路については福岡県警、一般道については植木ICから熊本県警のバトカーで先導して渋滞回避の支援をしたいと考えており、第一便として大津町と宇城市への配送便が出発。

(九州電力)

停電状況について、熊本市は送電完了し、前回より8700戸解消。

(西部ガス)

ガスの復旧体制について、4月21日までに他業者を含めて3000名体制になるよう計画中。

(熊本市上下水道局)

熊本市内の上水道について、13区域のうち10区域で通水または一部試験通水。現在76.4%の通水率になっている。

(自衛隊)

生活支援物資の避難所への搬送について、夜通しになるが、東京から届くので迅速に陸自・空自が一体となって加速させる予定。

(気象庁)

一週間程度は震度6弱程度の余震を警戒が必要。明日の朝にかけて山沿いで霜が降りる。冷え込みに注意が必要。

(国土交通省)

国道57号の崩落箇所について、工事用進入路の確保のための現地調査に着手。土砂災害の2次災害防止のための専門家チームを派遣。

(海上保安庁)

三角、熊本、八代港において巡視船4隻で給水、入浴、携帯電話の充電等の支援を行っている。航空機は3機待機させており、DMATからの要請により病院間の患者の移送を1件行った。

(経済産業省)

高森町のガソリン給油について、5か所全ての給油が可能になった。一方、南阿蘇村の全給油所は休止中だが、明日の朝から高森町のJA阿蘇高森給油所を南阿蘇村向けに開放する。

4 政府現地対策本部長の発言

(松本副大臣)

行方不明者の捜索、被災者の生活支援に尽力いただいている皆様に、厚く御礼を申し上げる。いくつか私のお願いの意味も込めて、現状の確認をさせていただきたい。

建物の応急危険度判定について、2次災害を防ぐために中止されている部分もあるが、いつ頃までに終わらせるという計画はお示しいただけるか。

(土木部)

明日から、県外からの判定士の派遣を更に70名増やしていただき100名体制で行う。場所的に入れないところもあるが、概ね1週間で考えている。

(松本副大臣)

概ね1週間で住めるかどうか分かるという理解で良いか？

(土木部)

基本的にそう考えていただいて結構。参考だが、大きなマンションについては熊本市が尽力しており、多く住んでいるところを急いでいる。

(松本副大臣)

水道が復旧するということで期待が大きかった分、復旧しなかった地域はちょっと落胆があると思うが、明日には完全復旧までいけそうか。

(熊本市上下水道局)

漏水箇所の修理を終えて通水すると新たな漏水箇所が見つかるといった状況。見つかった分は今夜中に終わらせたい。

(松本副大臣)

避難所の運営が十分にできていないと思っている。避難場所からのニーズが十分に町や県、国の非常対策本部に届いていないのではないかとと思っている。そこで、この避難

所で一番時間を割いているのがDMATだと思う。DMATには申し訳ないが、本来業務のほかに水不足や物資の不足品といった情報をできるだけ集めて本部へ報告してもらえないか。

(厚生労働省)

承知した。DMATが避難所を回っているほか、保健師の巡回を始めているところ。さまざまな課題が聞こえてくるが、内閣府防災とも連携して対応したい。

(松本副大臣)

被災者の食糧等の入手元となるコンビニやスーパーだが、コンビニ商品の供給量は増えているが、まだ不足していると思っている。あと3倍ぐらい集中させてくれと頼んだが、どのように考えるか。これ以上は国にプレッシャーはかけなくてよいか。

(知事公室)

(ライフラインが回復すれば家に帰って自炊ができるようになりコンビニ需要は減るかもしれないが) 帰宅しても自炊できるか分からないので流通量は増やして、すべてに行きわたるようになるまでは、たとえ過剰になったとしても流通を増やしていただけると有難い。

(松本副大臣)

アイデアがあれば担当部署に関係なく積極的に国を使ってほしい。

他自治体からの応援についてだが、市町村の人出が圧倒的に足りない。私の感覚では0が一つ足りないと感じている。今の十倍ぐらい必要ではないか。少なくとも避難所に1名ずつお願いしたとしても600名は必要。是非、レベルを10倍ということをお願いしたい。また全国の自治体が派遣するというのであれば、誰を派遣するとか急には計画は立てられないので、少なくとも3000人体制で計画は組むというレベルで最初から計画を立てていただきたい。

(全国知事会)

現場のニーズも把握して取り扱っていききたい。

(総務部長)

現在の応援職員数は、各市町村から要望があった人数に、満額回答で支援をいただいたものである。今後、要望が増加することは想定されるので、よりの確にニーズを把握し、責任を持って対処したい。

5 県災害対策本部長の発言

(蒲島知事)

現在判明しているだけで、既に42名の方々の尊い人命が失われている。行方不明の方も9名おられる。

16日未明の本震から3日目となり、人命救助にとって重要な時間的局面が刻一刻と迫っている。

自衛隊、消防、警察、海上保安庁等の防災関係機関の皆様、全員の救出を目指して全力を尽くしていただきたい。何とぞよろしく申し上げます。

また、4月14日の最初の地震発生から、すでに4日が過ぎようとしている。余震が続く中、被災者の方々の不安と疲労もピークに来ておられるのではないかと思う。本部に詰めている方も、現場で救済活動をされている方も、引き続き、被災者の方々が今最も必要とされていることは何かを的確に把握し、生活支援に精一杯努めていただきたいと思う。

今回の災害において、全国知事会や関西広域連合等から多数の職員が応援に入っている。更に、今後、各被災自治体に対して多数の職員の派遣が予定され、大分県からは南阿蘇村にすでに調整員が入り、明日には25名の職員が現地入りすると聞いている。また、福島県からも明日3名の職員が到着することによって、心から感謝申し上げます。

(以 上)

第9回政府現地対策本部会議・第12回熊本県災害対策本部会議 議事録

日時 平成28年4月19日(火) 11:30～

場所 県庁新館8階 職員研修室

1 地震の状況

別添資料のとおり。

2 被害の状況

死者44名(県警本部)。その他阿蘇市において避難者で亡くなられた方あり。

詳細の市町村からの被害情報、避難者数等は資料のとおり。

職員(応援職員含む)の派遣状況、関係機関の活動状況等は資料のとおり。

3 県等の対応状況

(総務部)

県立大学が避難所を撤収することについて、一部の方から避難所を追い出されるような表現の記事あり。学長が避難者に対して説明実施。

(企画振興部)

阿蘇くまもと空港については、到着便の運航が再開。ビルを使わない形で航空機運航中。

(健康福祉部)

義援金は1億7千8百万余。支援物資について自衛隊、運送業者等の協力を得て配布中。

(環境生活部)

廃棄物の処理については、単独市町村で対応困難なところは広域連携で対応中。

仮設トイレについての要請対応中。

本日、国の災害廃棄物支援チームが現地入り。

ゴミの分別が非常に大事。各家庭への周知が必要。

人吉市であらたに断水発生。

(商工観光労働部)

商工関係団体の被災状況は現在収集中。

当初地震ではキャンセルを心配していたが、今回の地震では観光客を受け入れられるかどうか心配な状態。

(農林水産部)

農業用ため池について、新たな情報として西原村で一部決壊の情報あり。

山腹崩壊について、航空機を活用して上空から調査。烏帽子岳付近で崩壊箇所発見。

営農対策に関する相談窓口を各地域振興局に設置。

J Aグループで対策本部を設置。

(土木部)

国道57号の代替ルートについて、昨晚の震度5強の地震後ゆがみだしたとの情報

があったため確認のために通行止めとした。確認後通行再開。

応急危険度判定についてはおおむね2週間を目途に変更。

県建設業協会からも積極的な支援あり。

(教育庁)

公立学校の被害状況及び休校状況を記載。

県立学校における避難状況も記載。

(県警本部)

南阿蘇村でお2人の御遺体発見。

九州縦貫自動車については植木以南を通行止めとしていたが、緊急通行車両については、植木から益城熊本まで通行可能とした。植木インターで警察官を配置して対応中。

主要道路について、他県警察の協力を得て、手動により信号機器の操作を実施。

昨日から女性警察官を避難所に派遣。

4 国等の対応状況

(内閣府)

さまざまな事案について関係機関と連携を図りながら対応中。

(消防庁)

2,000名規模で南阿蘇村を中心に捜索・救助を実施。

(自衛隊)

24,000名規模で活動実施。固定翼機含め約130機で救助及び物資輸送対応。

(警察庁)

他県からの交通部隊の調整等実施。

(国土交通省)

被災市町村にLO(リエゾン)を派遣して情報収集等実施。水が不足している市町村には散水車を活用するなどの対応中。

道路橋梁の調査のためにTEC-FORCE活動中。

(気象庁)

本日10時までで603回の地震発生。

少なくとも1週間は昨夜のような強い揺れに警戒。

今日明日は晴れ。明後日天気が崩れる見込み。

(海上保安庁)

三角港、八代港、熊本港で巡視船7隻による給水及び支援物資の搬送等を実施。

航空機4機で即応体制を実施。

(熊本市上下水道局)

17配水池のうち12配水池で試験給水を開始。

(九州電力)

本日停電は10,100戸。土砂崩れによる送電不可となっている阿蘇市、高森町及び南阿蘇村

全国の電気事業者の協力を得て、発電機車による対応中。

(LPガス協会)

会員540社で現場対応中。

(西部ガス)

復旧体制は昨日どおり。復旧事業の進捗状況説明。

カセットコンロ及びボンベについても貸し出すべく準備中。

(JR九州)

新幹線及び在来線の復旧状況説明。

5 政府現地対策本部長の発言

(松本副大臣)

県民の生活をしっかり復旧させる方向に一步進まなくてはいけない、また一步踏み出すための環境が整いつつある。電気については明日100%、水道は明日、明後日には100%を復旧させる。LPガス、都市ガスについても通常通りの営業を再開させる。自宅で食事ができる環境を整え、暮らしの基本を整える。今日、明日が正念場。

避難所の疲れも顕在化しており、暮らしをよりよくする必要がある。水が食料などの需要に対し、スピーディーに対応する必要あり。

自衛隊の活動については、重要な役割を担っているが、県民の暮らしを復旧させるためには、特に物資の流通に関して地元で活動する企業の取り組みが不可欠。

安倍総理の掲げた食料90万食の供給が、今日最終日を迎える。倉庫ではなく、避難所へ確実に届ける必要あり。県庁の入口に積まれている物資についても同様。

官房長官は昨夜の電話で、追加で引き続いて90万食を提供することを述べた。どういう輸送をするかが大きな課題。

避難所の生活について、トイレが足りないという声も上がっている。囲いのないトイレは使えない、という意見もあるので、工事現場で使用されているような仮設トイレを設けられないか。

コンビニの物資も、口に入るものが、熊本県内に集中しつつある。自衛隊の緊急車両と異なり、(コンビニの)物流業者の車は小さく、バラバラで、統制が困難であるが、経済活動のなかで支給できる食べ物の量を増やしていく必要がある。配送が困難な状況で、商業ベースの輸送車も優先させていくことも必要。

避難所の健康管理については、DMATの情報を活かす必要あり。県民の生活を支える。今日、明日が一番の正念場。

熊本市内だけでなく、近隣の市町村の水・電気・ガスを復旧させていく。

阿蘇の復旧については、これから。まずは人命救助、それから復旧。将来を見据えた対応を考えていく必要あり。

困難な部分もあるが、各建物の安全管理を徹底させていく。

6 県災害対策本部長の発言

(蒲島知事)

連日の懸命な捜索、避難者の支援おつかれさまである。しかし、残念ながら、お二人の方の死亡が新たに確認された。これにより、今回の地震災害による死亡者数は、

44名となった。

そして、いまだ行方不明の方が8名おられる。自衛隊、消防、警察、海上保安庁等の防災関係機関の皆様方には、全員の救出を目指して全力を尽くしていただくようお願いする。

余震も相変わらず続く中、避難生活が長期化し、被災者の方々の不安と疲労も大変大きいものがある。

現場で救済活動をされている方は、刻一刻と状況が変わる中、被災者の方々が今何を必要とされているかを的確に把握し、本部に詰めている方につないでください。現場と本部がしっかり連絡を取り合いながら、生活支援に抜かりが無いよう、精一杯努めていただきたい。

こうした中、復旧に関する明るいニュースも入ってきた。

交通アクセスに関して、昨日から、JR九州鹿児島線の荒尾～熊本間で運行が再開し、熊本～博多間を普通列車で行き来できるようになった。

さらに、本日からは、阿蘇くまもと空港において、東京、大阪、名古屋からの到着便の運航が一部再開した。復旧復興の第一歩と感じている。

被災された方々の不便や不自由を少しでも軽減・解消できるよう、国と地方、行政と民間といった垣根を越え、一緒に頑張っていきたい。

(以 上)

日時 平成28年4月19日(火) 16:30～

場所 県庁新館8階 職員研修室

1 地震の状況

別添資料のとおり。

2 被害の状況

死者は南阿蘇村で1名増えて45名。(県警)

所在不明8名。その他家屋被害等資料参照。

避難者数等、各機関の対応状況資料参照。

3 県等の対応状況

(総務部)

被災市町村への人的支援状況について、自治体間での支援状況をまとめた。

県職員は情報収集ということで各自治体に1名～4名派遣。

県外自治体からの県内自治体への支援は135名。厚生労働省からの保健師等の派遣もあり。

(企画振興部)

JR九州の豊肥本線熊本～肥後大津間は運転中。

阿蘇くまもと空港は、15時に国内線ターミナルが部分的に再開。

(健康福祉部)

避難者に対し、エコノミークラス症候群予防対策のチラシを配付するなどの周知。保健師チームも健康チェック等実施。

(環境生活部)

水道施設対応中。人吉で濁水による断水を実施していたが、復旧。

廃棄物に関しては、広域的な処理を実施。

(商工観光労働部)

経産省の官房長が現場入り。アイシン九州の被災状況を視察。

(農林水産部)

農業用ため池で緊急放流を実施。農業関係被害で生乳の廃棄が発生。野菜の選果場、畜舎、ハウス施設で被害が日を追うごとに増えている。

(土木部)

公営住宅受入可能戸数について、県営住宅は現在0戸だが精査中であり空き住戸から見直しを行っている。

(企業局)

前回から変更なし。

(教育庁)

学校の被害状況報告。

(県警本部)

益城～植木間で緊急車両の一部通行可能。植木 I C で警察車両を配備。渋滞は解消している。

(九州電力)

停電状況の報告。

(西部ガス)

供給再開、閉栓状況（進捗率 75.2%）について報告。

被災地の料金の特別措置について、経済産業省に申請し認可された。

4 国等の対応状況

(内閣府)

今回の大規模災害で世間から非常に注目され、それぞれのオペレーションが難しくなっている。各機関ひとつひとつ工夫して協力していきたい。

(消防庁)

緊急消防援助隊は南阿蘇村を捜索活動中。

(自衛隊)

避難所で物資が不足している状況。輸送力はまだあるため、物資が届いたら速やかに輸送ベースに乗せるため関係機関の協力をお願いしたい。

(気象庁)

13 時現在で地震回数累計 6 1 2 回。本日は数が減っており、震度 5 以上は発生していない。

(国土交通省)

道路の通行箇所は県からの報告のとおり、復旧については県へ協力する形で続けて一部は国のほうで施工していきたい。

(海上保安庁)

給水・入浴支援、一部は支援物資の搬送を実施。

(J R 九州)

本日から J R 東日本が復旧に参加。夜間も作業を実施。

(熊本市交通局)

被害はあと 1 箇所（レール沈下）対応中。一部を除き運転再開している。

5 政府現地対策本部長の発言

(松本副大臣)

皆様ご苦労様。

先ほど 2 時間、二つの町を視察した。

市電が走っていることに勇気づけられる。熊本は復興に向かっている。

マンションのベランダに洗濯物を見ると水が復旧し、暮らしが戻りつつあると感じる。

コンビニの何もなかった棚におにぎり、サンドイッチがおかれ、荷物が届くのを一日 3 回、4 回、5 回と増やしてもらいたい気持ち。

道路は思ったより綺麗にごみ回収ができています。電気、ガス、水道の復旧など暮らし

の基本が回復してきている。

6 県災害対策本部長の発言

(蒲島知事)

連日の懸命な捜索、避難者の支援、お疲れ様です。

先ほど南阿蘇村において、新たに1名の方の死亡が確認され、今回の地震災害による死亡者数は、45名となった。

そして、いまだ所在不明の方が8名。自衛隊、消防、警察、海上保安庁等の防災関係機関の皆様方には、全員の救出を目指して全力を尽くしていただくようお願いする。

余震を警戒しながらの避難生活が長期化し、被災者の方々の不安と疲労も大変大きいものがあると思う。私も先日、益城町の保健福祉センターを訪問し、被災者の皆さんの避難生活の実情を詳しく知ることができた。

現場で救済活動をされている方は、今後も引き続き、被災者の方々が必要とされているものを的確に把握し本部につなぐなど、現場と本部の連携を更に密に取りながら、生活支援に精一杯努めていただきたい。

全国の皆様から、心温まる多くの義援金をいただいている。本当に感謝申し上げる。

また、先ほど、日本財団が「平成28年熊本地震」への緊急支援として、90億円を超える支援策の第一弾を決定したとのビッグニュースが飛び込んできた。

突然の報告に、驚きとともに、今回の決断に対する感謝の気持ちで胸がいっぱいになった。熊本県民を代表して、心から感謝申し上げます。

今回の日本財団からの緊急支援では、家屋損壊等に対する見舞金の支給や住宅・事業再建資金のための融資制度の創設等を考えておられる。特に、熊本県民の誇りである「熊本城」の再建に対する30億円もの支援は、県民が復旧・復興に向け立ち上がる大きな力になる。

更に、水道、電気、ガスなどのライフラインや、道路、鉄道、空港などの交通インフラも着実に復旧しつつある。

特に、空港については、本日から到着便に続き、出発便についても午後3時に再開した。

一日も早い復旧復興を目指して、国と地方、行政と民間といった垣根を越え、皆さんと一緒に頑張っていきたい。よろしく願います。

(以上)

第11回政府現地対策本部会議・第14回熊本県災害対策本部会議 議事録

日時 平成28年4月20日(水) 16:30～

場所 県庁新館8階 職員研修室

1 地震の状況

別添資料のとおり。

2 被害の状況

死者48名(県警)。その他11名。計59名。

その他被害多数。(資料参照)

避難者数等は資料のとおり。避難者数9万人。熊本市5万人。

3 県等の対応状況

(総務部)

県から被災市町村等への人的支援について、今後とも各市町村のニーズに柔軟に対応していきたい。私立高校における県民の受入れについて、今後の授業再開もあり、順次受入れ終了の予定。

(企画振興部)

熊本市電は平常運行になった。

(健康福祉部)

DMA Tについては、DMA Tの活動から各避難所等の巡回相談に移行していきたい。全国知事会からの協力で、救護班35班体制で支援をいただくことになっている。

物資について、国の方からプッシュ型の第二陣が来ると聞いているので、県の方でも、市町村の避難所の細かいニーズを把握するために現地へ人を派遣するという体制を確保しながら迅速に搬送を心掛けたい。

(環境生活部)

廃棄物について、通常の一般廃棄物は、県内の他の施設に処理をお願いするという広域調整を行っている。

災害廃棄物については、市町村からの依頼により産業廃棄物協会に、し尿関係は環境事業団連合会と連携して進めている。また、国の災害廃棄物処理支援チームの助言をいただいている。

全国都市清掃会議の協力で神戸市から益城町へ先遣隊2名が入っている。

(農林水産部)

大切畑ダムについて、昼から現地調査に入ったが思った以上に厳しい状況にあり、今後、応急あるいは復旧について国の技術的支援をお願いすることもある。

益城IC-植木IC間の活用による産物の県外出荷を今日から開始。

(土木部)

建物の危険度判定について、県の建築課内に応急危険度判定本部を設置して18日から順次実施している。19日までに延べ260人の判定士を現地に派遣し、熊本市及び益城町

において、現在のところ 1737 件の判定の結果、危険判定が 919 件、要注意が 506 件であった。かなり悪い状況にある。また、熊本市内においては、高層マンションなど住宅が高密度に存在する、主要な 5 つの幹線道路沿いの判定を進めており、その後、被災の程度が大きい住宅地の判定を進めていく予定であり、現在、判定を行う地域や棟数の検討をしているところと熊本市から聞いている。

熊本市以外については、益城町及び西原村を今週中を目標に判定を終え、それと並行して阿蘇市等の被災状況を把握し、4 月 30 日を目標に全域の判定を進めていきたい。

県内の判定士については、一日当たり 30 名程度を確保し判定していくが、判定の早期実施のため、県外からの判定士の派遣を国や他都道府県等をお願いしており、本日は約 100 人の派遣をいただいている。さらに国土交通省の強力な支援により約 500 人の派遣を追加していただく方向で調整していただいている。

(県警本部)

九州道については、植木 I C の手前に警察官を配置して、貨物車両については植木 I C から益城 I C まで通している。

4 国等の対応状況

(内閣府)

省庁の縦割りの弊害をなくすために、政府現地対策本部に経済産業省、農水省、内閣府、国土交通省、中小企業庁、内閣府官房等の幹部職員派遣

(警察庁)

物資の集積拠点について、従来の鳥栖に加えて本日から福岡にも設置して被災自治体に警察が誘導して配送。

(JR 九州)

新幹線設備の復旧状況について、新玉名・熊本間は 4 月 22 日にはほぼ終了する見込み。新幹線の脱線箇所以外は 26 日にまでに補修できればと考えている。一号車と二号車の切り離しに成功して、一号車を総合車両所に運搬の算段をしている。全体については目途がついていない。

5 政府現地対策本部長の発言

(松本副大臣)

一週間ありがとうございました。皆さんの協力のおかげ。これから本格的な復興が始まる。安倍総理からの指示で東京に戻り報告する。また戻ってきたい。

本日、自衛隊機で阿蘇を視察した。阿蘇の上空からの風景は、一面がブルーシートに覆われ、ほとんどの家が被害を受けている。早急に危険度の判定をする必要がある。なお一層のご尽力をお願いしたい。

避難所の要望にどれだけ細かく応えられるかが問われる時期に差しかかってきたと考えている。それぞれの避難場所でボランティアが炊き出しをする体制は整っているか、いつまでに必要な資材が用意できるか、一兩日中に対応をお願いしたいと思っている。

支援物資の搬入の課題について、次の 90 万食が明日からスタートする。これから 3 日間、一巡目より支援物資の順調な輸送を強く願う。

今日も、庭に洗濯が干されているのを見て、この家も水道が復旧したんだ、生活が戻りつつあることを実感した。

市電は県民、市民の勇気のシンボルであり、これを見ると勇気が湧くので完全復旧に向けて運転再開の努力をお願いしたい。

ガスについて、いつまでに復旧できるのか、資料の中に目標値が示されていない。視察先の飲食店の声として「ガスがないから営業できない」、「いつ復旧するのか、仕事を変えなくてはいけない・・・」といった将来への不安がある。あと一週間か、二週間か、一か月か、目処を立てて示す必要がある。この地域はいつ頃までを目標に復旧させるのか明確に示していただきたい。時間がかかるのであればその理由を添えた資料提出を明日の会議にはお願いする。

○ボランティアの受入れについて

明日21日からのボランティアの受入れについてどういう周知を行っているのか。最初の案内をどうするのか、受け入れ、運営の体制は整っているのか。

→ 県の回答

ボランティアセンターを各所に設ける予定だが、社会福祉協議会と協力体制をとっている。周知については、ホームページによる案内を行っている。体制については、一部の市町村では受け入れ体制ができているものの、県全体としては用意ができていない。

→ 松本副大臣の指示

ボランティアはものすごく力になる。昨日、知事もボランティアの力を借りなければ各家庭の片づけができないと言われていたのでボランティアの力を活かせるようにする必要がある。合同会議に社会福祉協議会の代表者を入れて欲しい。

○ごみ処理について

ごみ処理について市民から「いつまでに取りに来てくれるのか」という声があり、早急に対応する必要がある。民間、他自治体の協力を得ているが、そういう状況も頭に入れて対応をお願いしたい。

→ 県の回答

市町村と、そこが手が回らないところは産業廃棄物協会に一部委託して、あるいは他県と協力して取り組んでいる。街なかから仮置き場へ移し、可燃物と不燃物を分別し、焼却できるもの埋め立てるもの、県で広域調整をして円滑な処理を行いたい。

仮置き場については、環境省の協力も得て確保できてるようだが、各県の応援をいただくとはいえ、その応援を地図に落としした時に、一日に何回くらい回れるのか、そういう工程表を是非考えて会議に示していただきたい。これによりメディアを通じて県民に伝わるのでよろしく願います。

(酒井政務官)

災害対策に集まっている皆さんに大変感謝申し上げます。これからの支援について、刻々と変化する問題に対応していく必要がある。ご努力をお願いしたい。

これから、医療体制、ごみ問題、避難所の運営、ボランティアなど様々な課題について考えていく必要がある。現場の声をしっかりと吸収していきたい。

政府においては、被災者支援チームを立ち上げ、政府一体となって、縦割りを解消し支援していく。総理から「まずは命を守る」、「一体となって皆で知恵を出していく」との指示があった。

被災者が「良くなったなあ」と思えるために頑張っていきたい。

6 県災害対策本部長の発言

(村田副知事)

知事が南阿蘇方面の視察のため、知事の指示事項を伝達する。

連日の懸命な捜索、避難者の支援、おつかれさまです。

昨日の会議以降、新たに4名の方の死亡が確認され、今回の地震による死亡者数は、いわゆる「震災関連死」の可能性のある方を含め59名となった。依然として所在不明の方が3名おられる。24時間体制で救出活動に取り組まれている防災関係機関の皆さんの疲労は、ピークに達していることと思うが、全員の救出を目指し、全力を尽くしていただきますようお願いしたい。

まだ余震が続く中、明日は天候の悪化も予測されているので、今後の動向には引き続き注意を払っておく必要がある。

避難生活の長期化に伴い、被災者の方々の不安と疲れも大きくなっている。

現地支援活動をされている方は、今後も引き続き、被災された方々の気持ちにしっかりと寄り添い、各現場と本部の連携を一層密にしながら、生活支援に精一杯努めていただきたいと思う。

また、避難所で車中に寝泊りされる皆さんは、エコノミークラス症候群に十分注意していただき、水分補給などの適切な対応をお願いしたい。

本日午前中には松本副大臣が、そして午後には蒲島知事が、被災者の皆さんや救助スタッフの方々を激励するため、南阿蘇村の避難所を訪問中です。明日以降の対策会議にて報告や指示をいただきたいと思う

一日も早い復旧復興を目指して、国と地方、行政と民間といった垣根を越え、一緒に頑張っていきたいと思う。

(以 上)

第12回政府現地対策本部会議・第15回熊本県災害対策本部会議 議事録

日時 平成28年4月21日(木) 16:30～

場所 県庁新館8階 職員研修室

1 地震の状況

別添資料のとおり。

4月16日の地震について、震度修正。6強→7。

2 被害の状況

南阿蘇村で行方不明者が発見され、行方不明者数が1名減で残り2名。

死者については昨日時点であり、変更なし。48名(県警)。その他10名。計58名。

震災関連死については、益城町において2名計上していたが、1名を再度審査し直すということで、前回より1名減。

その他被害多数。(資料参照)

避難者数等は資料のとおり。避難者数9万人。熊本市5万人。

今回の雨を受け、地盤が緩んでいることから、避難指示及び避難勧告についてまとめている。(資料参照)市町村を通じて早めの避難を呼びかけているが、マスコミにおかれても、早めの避難を促してもらうようお願いする。

3 県等の対応状況

(総務部)

普通交付税(6月交付分)に関して、被害の大きい市町村16団体に繰上交付される予定。

被災市町村に対する人的支援。

(企画振興部)

交通機関の運行状況について

JR九州：熊本～八代間で運転再開予定。

航空機：48便で運航(予定含む)。

高速バス：熊本～福岡間運転再開。

フェリー：九商フェリー、熊本フェリーが明日運航再開。

(健康福祉部)

基幹病院等の被害については変更なし。

DMAT、DPATについては県外からの協力も得て活動中。

新しい取り組みとして「すまい支援PT」を設置。住まいに関する総合的な支援を実施。

本日付で3団体に協力を要請。今後「みなし仮設住宅」の設置等に協力してもらう。

被災者生活再建支援法の適用について、本日付で支援金の交付が始まる。

ボランティアの活動状況厚労省等との連携により、物資調達ボランティアの受け入れ開始。その他ボランティアの活動連携強化。

高齢者及び障がい者等への宿泊施設の提供の開始。主に、天草・水俣方面のホテル・旅館。

義援金については9億7千万円余。

地域災害保健医療提供体制の推進状況について説明。

エコノミークラス症候群の予防等の避難所等への配布等の実施。

(環境生活部)

水道施設の被害状況について、産山村断水解消。山都町において水資源機構から50トンの給水支援。熊本市で試験通水を実施しているが、新たな漏水も発覚。

廃棄物の処理状況について、広域調整の実施中。また、全国知事会の支援により、岩手県から3名派遣あり(東日本の震災ゴミを対応。)

熊本市のゴミの状況について、災害ゴミの収集に特化するため、資源ゴミについては明日から回収ストップ。災害ゴミは曜日に関係なくゴミステーションに配置可能。他の自治体の収集車を3つのクリーンセンターに配置。

(商工観光労働部)

熊本市及び阿蘇市の旅館はほとんど開きなし。ゴールデンウィーク前のキャンセルは約3万7千。逆に新規の予約が1万4千。

観光施設について、熊本市、阿蘇、上益城以外は開いているが、利用者減。

(農林水産部)

農業用ため池及び大切畑ダムについては、地元市町村と連携し、対応中。

全漁連支援チーム活動開始。

(土木部)

資料下線部のみ変更。

(企業局)

熊本市の県営駐車場の被害報告。

(教育庁)

学校の被害状況、休校等の状況報告。避難所としての学校の被害状況報告。

(県警本部)

本日捜索中断。立野地区避難者を他の地区へ自衛隊とともに輸送。

4 国等の対応状況

(内閣府)

発災後長期化し、避難者のニーズも変わっている。被災家屋も同様。このようにフェーズが変わっており、適切に対応していく。

また、雨による対応も必要であり、政府現対としても対応していく。

(緊急消防援助隊)

約440隊、1,500名で南阿蘇村等において、地元消防とも連携を図りながら対応中。

(自衛隊)

各種支援活動実施中。本日から道路のガレキの除去作業も開始。

(九州地方整備局)

通行できない道路のあい路解消に向けて作業中。

(全国知事会)

熊本県からの要請を受け、順次職員の派遣対応中。被害の大きい市町村に対しても対応中。

(九州電力)

がけ崩れ等復旧困難な場所を除き復旧済み。

阿蘇市、高森町及び南阿蘇村には全国からの応援を得て、発電機により対応中。現在、仮復旧に向けた対策を至急実施中。

(西部ガス)

日本ガス協会等からの応援により復旧に向けた対応中。5月8日までには復旧させる予定。

必要性の高い施設について、復旧までの代替措置として移動式のガス発生装置を設置。

(JR九州)

在来線及び新幹線の復旧状況報告。

(海上保安庁)

巡視船による生活支援の実施。

航空機による即応体制。

5 政府現地対策本部長の発言

(酒井政務官)

今日は、雨で一段と緊張した中での対応をしていただいていると思う。

雨のために捜索が出来なかった所があり、ご家族の方は大変辛い思いをしていらっしゃると思うが、捜索が出来るようになったら、よろしくお願ひしたい。

今、各部署から報告いただいたが、ガス会社の方にはご努力いただき、すばらしい報告をいただいたと思っている。

それぞれの各部署の皆様大変だと思うが、それぞれの課題を把握、分析しながら対応していただきたい。物資等諸々のことも順次回り始めていると思っている。

まだまだ足りない部分もあるかもしれないが、しっかり対応いただきたい。

昨日の夜、益城町の避難所の状況を見させていただいた。1週間経って、あの場所でお年寄りや皆さん方がいらっしゃるというのは、大変つらいだろうと思った。この状態を早く何とかしなければならぬと思う。既に対応していただいているが、そのことを頭に入れながら、一刻も早く移動していただくということ、ご希望をお聞きしながらやっていかなければならぬと思うので、よろしくお願ひしたい。

ボランティアが動き始めた、必ず、皆様のお力になると思うが、どんなツールなのかということをお聞きしたい。

(県社会福祉協議会)

災害ボランティアセンターが次々に立ち上がってきている。県の災害ボランティアセンターが各市町村社協の意向を聞いて、ボランティアセンターの立ち上げをお手伝いしている。希望している所が15カ所あり、既に5カ所では募集を始めている。明

日、熊本市が実動される予定になっている。

県社協からお手伝いしているが人手が足りないので、被災していない市町村社協からの応援を頂いている。それから、九州各県社協から2名ずつお出でいただいている。5日間クールで交代していくことになっている。その後、中国、四国から応援に来ていただくことになっている。災害ボランティアセンターは、順調に動いていると思っている。

(酒井政務官)

今話を聞くと、色んなところからご支援をいただきながらやるということだと思う。大変だろうけれどもしっかりと運営を含めてご協力いただきたい。

皆さんにお願いしたいのは、刻々と色んな課題が出てくるので、いわゆる、報・連・相という言葉があるが、一つ一つを大切にしながら、コミュニケーションをとりながらやっていただきたい。

最後に、体に十分気を付けて怪我をしないように被災者のために頑張ってください。

6 県災害対策本部長の発言

(蒲島知事)

連日の懸命な捜索、避難者の支援、おつかれさまです。

現在、県内に大雨警報が発令されている。自宅におられる方々も含め、土砂災害等に十分警戒していただき、お住まいの市町村の避難勧告等に従い、早めの避難をお願いしたい。

また、昨日の午後、私は被災者と救助スタッフの方々を激励するため、南阿蘇村の避難所を訪問した。そこで、被災者の皆さんの声をお聞きし、現状を直接自らの目に焼き付けてきた。

国からの御支援もあり、水、食料等の緊急物資は届くようになったということだった。

現地支援活動をされている方は、引き続き、被災された方々の気持ちにしっかりと寄り添い、各現場と本部の連携を一層密にしながら、生活支援に精一杯努めていただきたいと思う。

また、車中に寝泊りされる方々は、エコノミークラス症候群に十分注意していただき、運動や水分補給などの適切な対応をお願いしたい。

それから、今後、県が実施する被災者支援の新たな取組みについて、3点御報告したい。

1点目は、所在不明者に関する相談対応。現在は、市町村が住民の所在確認を行っているが、行政システムの被害が深刻な市町村もあることから、県では、まだ明らかになっていない所在不明者に備え、相談窓口を明日22日から開設する。

2点目は、被災者の方の自宅内の整理などを支援していただくボランティアの募集が開始された。被災者の方々の、「早く自宅に帰りたい」という思いが1日も早く実現できればと思う。

3点目は、被災者向けの住まい確保に向けた取組み。住宅の応急危険度判定の結果、自宅に戻ることが困難となった方々に対し、公営住宅や旅館・ホテル等の活用により

住まいを確保するプロジェクトチームが活動を開始した。

このような取組みにより、一日も早い復旧復興を目指して、国と地方、行政と民間といった垣根を越え、一緒に頑張っていきたいと思う。

(以 上)

第13回政府現地対策本部会議・第16回熊本県災害対策本部会議 議事録

日時 平成28年4月22日（金） 16:30～

場所 県庁新館8階 職員研修室

1 地震の状況

(別途気象台から報告)

2 被害の状況

死者数については、阿蘇市で関連死が1名増え2名となった。

関連死も含めて合計で59名。

重傷者、軽傷者は未分類のものも含めて1,284名。

住家被害状況については、未だ調査中の市町村もあるが、全壊、半壊、一部破損合計で1万棟を超える被害となっている。

避難の状況について、県計で避難所数602カ所、避難者数81,006人となっている。

避難指示等の発令状況について、15市町村において避難勧告、避難指示継続中。

なお、本日から、相談ダイヤルを設けたが、9時から16時まで26件の相談があった。緊急性があるものはなかったと聞いている。

3 県等の対応状況

(総務部)

被災市町村等への人的支援状況について、現在、他県を始めとした派遣職員が増え、522名まで増えている。

私立学校の休校状況について、熊本市内の学校を中心に来週も休校を決定している学校が大半で、早いところで5月2日、遅くとも5月10日の再開を予定。

(企画振興部)

航空機関係で便数が増えている。

フェリーの関係で、九商フェリー、熊本フェリーが通常運航となっている。

(健康福祉部)

1ページ目4番、5番について、各避難所のニーズに応じて救護班、いわゆる医師を置く体制、並びに保健師、各避難所を回る体制を確保している。

9番、昨日、すまいの支援PTを設置したが、仮設住宅への対応を迅速に進めるため、土木部と連携して取り組みたい。具体的には、民間の賃貸住宅を利用したみなし仮設住宅については、現在、不動産関係団体と調整し、空き住居の情報提供や情報処理体制、事務処理体制の準備を進めている。また、応急仮設住宅については、市町村の要望に応じ、建設用地の選定を進めるとともに、使用等の検討を進めている。特に、西原村については、有望な建設用地があり、現地の状況の確認を土木部に行っていた。

11番、今週末、熊本入りする県外からのボランティアの方々について、大学コンソーシアム熊本の協力を得て2大学から140人分の宿泊スペースを確保頂いた。

13番、義援金について、13億6千万円余となっている。

(環境生活部)

水道の状況について、玉名市が解消し水質検査を行っている。菊池市も給水開始だが、濁度の解消を待っているところ。高森町も給水開始。

廃棄物の処理状況について、ゴミ処理施設等いろんな不具合が生じているが、県外施設あるいは県内施設で広域調整をしてお世話になっているところ。

(商工観光労働部)

説明は省略。

(農林水産部)

避難所支援として、日本木材青壮年団体連合会から仮設ハウスの建込も含めた提供が行われている。4月25日に大津町に設置予定。

(土木部)

今回の地震で電柱が倒壊している状況が報告されているが、今後、さらなる倒壊が起こる恐れがある。復旧活動を円滑に進めるため、倒壊や傾斜している電柱の位置や本数を九州電力、NTTさんから災害対策本部にご報告いただきたい。

(教育庁)

下線部が変更部分。

休校情報について、確定している分を入れているが、今後動きがあると思う。

(県警本部)

昨日中断していた現場の捜索については、午前中、安全性を確認のうえ、午後から再開しているが、発見には至っていない。

道路交通の状況について、本日も九州自動車道、国道3号等主要道路に警察官を配置し、熊本市内方向について円滑な交通を確保している。

3号線について熊本市内から植木方向がかなり渋滞している。原因は、植木温泉に向かわれる方、一時期無料ということで8kmぐらい渋滞していた。昨日あたりから、有償になり若干、6kmぐらいに減っているが、依然として交通が渋滞している。

4 国等の対応状況

(内閣府)

引き続き、関係機関と協力して進めていきたい。

(緊急消防援助隊)

昨日の雨の影響を考え、活動再開の検討を行うため、防災ヘリを活用し上空からの現場調査を実施している。

陸上からの調査と合わせ、本日午後、活動を決定し、13時から再開予定。

高野台では、200人を現場投入し、夜を徹した活動を行う予定。

立野地区では、無人重機による活動を国土交通省さんにやっただいてはいるが、それに関する地震警報器等使用による安全管理、そういったものを担当している。

各避難所等に救急隊を配置している。昨日、16時から22名の救急搬送を実施。

(自衛隊)

活動は今まで通り実施。

各避難所への物資の輸送のシステムがほぼ出来上がったので、食料等は届いている。

今後の課題として、生活用品のマッチング。それぞれの避難所で必要なものが多少違うと思うので、こまめにマッチング出来るように活動していきたい。

(警察庁)

県警本部からの説明どおり。

(国土交通省)

国道57号の迂回機能を有するグリーンロードの啓開作業を完了し、本日10時より大型車両の利用が可能となっている。

砂防関係で、南阿蘇周辺を国交省のヘリで専門家による調査を実施している。

住宅について、応急危険度判定の進捗管理を継続するとともに、増援予定の判定士派遣について引き続き調整を実施中。被災者の皆様への空き住宅紹介の窓口一本化に向けた調整も進めている。

(海上保安庁)

昨日に引き続き、熊本港、三角港、八代港で入浴支援等を行っている。現在のところ、15時現在で約500名の方に利用いただいている。

その他、午前中、病院間輸送ということで、県の要請を受け、熊本附属病院から福岡の病院まで切迫早産の妊婦さんの空輸を行っている。

(気象台)

引き続き活発な余震活動が続いているとみている。

天気について、明日の昼ごろから曇り、夜は雨。雨量は10mm程度。

(九州電力)

倒れた電柱の件については処置を行った。

阿蘇方面に送電していた送電線が土砂崩れで使えなくなっている。仮の送電線ルートを建設中であるが、昨日の雨、余震で中断し、完成が27日の予定。

(JR九州)

九州新幹線、博多から熊本の間について、明日、正午頃から運転を再開することとなった。時刻については、決定次第お伝えするが、概ね1時間に1本という形で復旧。

在来線については、明日、午後から三角線を運転開始する予定。

脱線している新幹線については、4両を線路の上に乗せて逐次、総合車両所に運搬している状態。

(西部ガス)

復旧体制については、本日付けで3,856名の体制。

中圧の復旧状況は、供給再開日の調整をしていた施設2カ所を昨日、供給開始。

低圧の復旧状況は、今朝9時現在で8,557戸、8.5%の復旧率になっている。

お客様支援策ということで、移動式のガス発生設備であるが、昨日、6件の追加設置を行っている。

(LPガス協会)

お客様相談所等において、消費者の方の問い合わせやクレームに鋭意対応しているところ。

5 現地対策本部長の発言

(酒井政務官)

一つだけ質問があるが、住宅診断の状況は。

(土木部)

お配りしている資料のその他のところで、21日までで113名、発生件数が県2800件、熊本市433件終わったところ。

支援をさらに要請していて、23日からはさらに増えてくるので、今まで以上にたくさんできると思っている。国交省の采配により各県をお願いしているところ。

(酒井政務官)

明日から雨ということがある。引き続き皆様にはご努力をお願いしたい。

今日、避難所に行ってきたが、まだ役所の方の体制が整っていないところがあった。職員の人数も少ないし、職員が物資の配給だとかいろんな対応に追われて、通常の業務ができていないところがあった。そこで、全国の支援を受け、昨日から入っていただいて、いろんな調査をやっていたというところだった。

熊本市長にも会ってお願いしたが、ごみの分別をしないと後々とんでもないことになる。ごみの分別をしっかりと指導することを、県・市町村の皆さんをお願いしたい。

まだまだ、予断を許さないし、これから皆さんの協力等をお願いしたい。

6 県災害対策本部長

(蒲島知事)

連日の懸命な捜索、避難者の支援、おつかれさまです。

昨日は、大雨洪水警報が発令されたため、二次災害を考慮し、救助活動を見合わせざるを得なかった。本日は、午前中に安全確認を行い、午後から活動を再開している。

一刻も早い救助を心から願っている。

避難生活も丸一週間が過ぎた。何かと不便な生活の中で、被災者の方々は、疲れが相当地に蓄積しておられると思う。

現地支援活動をされている方は、引き続き、被災された方々の気持ちにしっかりと寄り添い、各現場と本部の連携を一層密にしながら、生活支援に精一杯努めていただきたいと思う。

それでは、私から3点ご報告させていただきたい。

まず1点目は、応急仮設住宅について、西原村で、家屋の被害の概要が把握されるとともに、候補地が概ね固まったことから、建設に着手することになった。他の市町村においても、順次、条件が整い次第、整備を進めて参りたい。

次に2点目として、国が手配されたフェリー、「はくおう号」が、本日八代港に入港した。明日から、被災者の方々を一時的に受け入れる予定。避難所生活での疲れを少しでも癒していただければと思う。

最後に、先ほど、天皇皇后両陛下からお見舞金を賜った。両陛下には、地震が発生した翌日の4月15日にも、亡くなられた方へのご冥福と被災者へのお見舞い、対応している関係者へのねぎらいのお言葉をいただいている。

両陛下の国民を慈しむ深い愛情と、被災地に対する優しいお心遣いに、心を打たれ、感謝の念に堪えない。謹んでご報告したい。

皆さんも相当にお疲れのことと思うが、一日も早い復旧復興を目指して、お互いに励まし合い、一緒に頑張っていきましょう。

(以 上)

第14回政府現地対策本部会議・第17回熊本県災害対策本部会議 議事録

日時 平成28年4月23日(土) 16:30～

場所 県庁新館8階 職員研修室

1 地震の状況

(別途気象台から報告)

2 被害の状況

死者48名(県警)。その他12名。計60名。

その他被害多数。(資料参照)

避難者数等は資料のとおり。避難者数7万人。熊本市4万人。

3 県等の対応状況

(環境生活部)

熊本市の災害ごみの収集について、昨日は2,000トン福岡市、広島市等の協力を
受けて災害ごみの収集を行った。

(商工観光労働部)

本日、中国の程大使が表敬に来られ、義援金を出されている。

県施設の被害は別添資料のとおり。

(農林水産部)

山腹崩壊について、県下全体で230カ所に箇所数が増えた。うち、人家隣接地では
継続して監視中。

農地の災害が明るみになってきた。阿蘇市、西原村等で大規模な地割れ等が発生して
いる。

(土木部)

道路の通行止めについて、一番多い時は134カ所あったが、今、60ぐらいまでに
減ってきた。

国土交通省はじめ、特に、建設業協会の皆様のご努力のおかげ。

(教育庁)

下線部が変更点。

(県警本部)

搜索の状況について、高野台団地は夜通しで行っているが、現在、雨のため中断して
いる。阿蘇大橋については、国土交通省に無人の重機を提供していただいている。いず
れも発見には至っていない。

この他、益城町で発生していた空き巣の被疑者を検挙している。

3 国等の対応状況

(内閣府)

いろいろ新たな事態が発生しているので、政府現地対策本部の機能を強化しながら引

引き続き関係機関と連携しながら対応していきたい。

(緊急消防援助隊)

立野地区について、朝から下流側からの活動を行っていたが、15時55分から、上流からの活動を行っている。国土交通省さんのバックホーを使った分の活動。

高野台地区について、14時半の時点を持って、雨の状況をみて中断となっている。再開の見込みは未定。

救急搬送について、16時現在をもって、救急件数16件、搬送者20名。

(自衛隊)

記載のとおり、約26,000人態勢で活動している。

(警察庁)

県警本部の報告どおりの活動を行っている。

(国土交通省)

住宅の応急危険度判定について、判定士の大幅増員をもって進捗を図っている。

阿蘇大橋地区の土砂撤去について、熊本側からは、無人バックホー等により実施中、併せて、大分側からも土砂撤去に入るべく、本日より工事用進入路の設置作業を開始している。

砂防について、緊急度の高い危険箇所約1,100カ所に対して、土砂災害現地調査チームにより、昨日まで618カ所点検を完了している。

(海上保安庁)

引き続き、巡視船による給水、入浴支援の作業を行っている。

(気象台)

地震の状況については、引き続き活発な活動が続いているとみている。

天気については、明日は曇り、午前中中心に一時雨、雨量は、5ミリ～10ミリ。

(JR九州)

新幹線は、博多・熊本間は今日から開通。脱線した新幹線も本日で全てレールの上に乗せた。

在来線は、明日、早朝より肥薩線が開通する予定。

(西部ガス)

体制は、本日で人員4,477名になる予定。

復旧状況について、中圧は特に変更はない。

低圧は、本日、12時現在で13,356戸、復旧率13.2%。

カセットコンロの配布について、要望に応じた個別配布ということで、228台を配布した。

(LPガス協会)

安全確保のため、倒壊した家屋のボンベの回収を進めている。

5 国現地対策本部長の発言

(酒井政務官)

今日は、安倍総理が被災者の皆様をお見舞いされた。

まずは、南阿蘇村、その後、県庁で震災にあわれた首長と意見交換をされ、その後、

益城町に入られた。

その中で話が出るのが、これから住む所をどうしたらいいんだろう、ということだった。同行した我々もつらい思いであったけれども、皆様のご努力で少しずつ進んでいると理解している。

それから、総理からは、県、市町村それぞれ関係機関の皆様と一緒に密に連絡を取りながら、政府も一体となって進んでいくという言葉 皆さんにかけられていたので、ご報告申し上げます。

インフラ関係、物資関係も順調に進んでいると思っている。物資関係については、次の視点から順番にやっていかなければならないこともあろうかと思うので、皆さんのご協力をお願いしたい。

南阿蘇に関しては、今後、時間もかかるし大変だと思う。

先ほど報告があったが、お亡くなりになった方で、震災の影響でお亡くなりになった方が増えて、今の状況が続くとだんだん増えていくのかなと思う。医療、環境、衛生の問題もきちんとやっていかないとけないことがたくさんあると思う。

避難所が増えていく、増えたところもきちんとチェックしながら是非とも対応していただきたい。

6 県災害対策本部長の発言

(蒲島知事)

連日の懸命な捜索、避難者の支援、おつかれさまです。

今回の地震により、60名の方の尊い命が失われました。謹んでご冥福をお祈りしたい。

現地におられる皆さんにおかれては、夜を徹しての捜索活動で疲労もピークに達しておられることと思う。本日は雨が降っておりますので、現地での捜索活動には万全の注意を払ってほしい。一刻も早い救助を心から願っている。

避難生活も丸一週間が過ぎた。何かと不便な生活の中で、被災者の方々は、疲れが相当地に蓄積しておられると思う。

各避難所に、必要なものを確実にお届けするための態勢は整ったが、エコノミークラス症候群やノロウイルスの発生など、健康面、衛生面、さらには、心のやすらぎなどメンタル面のケアに注力してほしい。現場と本部の連携を一層密にしながら、生活支援に精一杯努めていただきたいと思う。

また、本日は、安倍首相に災害の最前線を視察していただいた。お会いした際に、自衛隊をはじめとする人命救助や、プッシュ型支援による水や食料などの物資供給など、政府の総力を結集した御尽力に対して、感謝の気持ちを直接お伝えしたところ。

本日は、九州新幹線博多～熊本間の運行再開という、嬉しいニュースがあった。また、災害ボランティアの皆さんが、続々と現地で支援活動を開始され、復旧・復興に向けた力強い一歩を踏み出したという実感も湧いてきた。

この歩みを停滞させないため、皆さんに一つお願いがある。現在、1日も早い復旧・復興に向けて、個人、国、県、市町村、民間企業などが、自らが被災しながらも、自分たちが果たすべき役割を精一杯果たしている。このような状況においては、お互いに助

け合いの心を持つことが何よりも重要。

皆さんも相当お疲れのことと思うが、一日も早い復旧復興を目指して、お互いに励まし合い、「チームくまもと」として一緒に頑張っていきましょう。

(以 上)

第15回政府現地対策本部会議・第18回熊本県災害対策本部会議 議事録

日時 平成28年4月24日(日) 16:30～

場所 県庁新館8階 職員研修室

1 地震の状況

別添資料のとおり。

2 被害の状況

被害多数。(資料参照)

避難者数等は資料のとおり。避難者数6万人。熊本市4万人弱。

3 県等の対応状況

(総務部)

被災市町村への人的支援状況については資料のとおり。引き続き各団体のニーズを踏まえた支援を行う。

(企画振興部)

鉄道関係で、JR九州の肥薩線八代～吉松間が通常運行。航空機関係で阿蘇くまもと空港発着が54便運航。

被害情報は別添資料のとおり。

(健康福祉部)

保健師チームを1班増やし、68班体制。DPATの要請は25チーム。仮設住宅への対応は、全国都道府県に対し公営住宅の一時避難先の供与、旅館等を活用した受入支援の情報提供を依頼。感染症対策として、避難所での予防、啓発並びに消毒用品を調達中。4月22日(金)に嘔吐下痢症状の報告あり、22名のうち1名についてノロウィルス陽性を確認。22日をピークに現時点で有症者無し。今後も消毒等を徹底。報道資料「熊本地震に伴う被災者に向けての民間賃貸住宅の情報提供」開始。自己の資力で住宅を確保できない人に限り相談を受ける。

(環境生活部)

益城町は1万戸断水、明日から一部通水予定。宇土、宇城(松橋地区)、が断水解消。

熊本市城山配水区の計画断水は解除。

(農林水産部)

阿蘇市(阿蘇谷)、西原村で広範囲に地割れや段差が発生し営農できない状態。白川で濁水状態にあり、河口域で赤土浮泥が広範囲に堆積。その一部の範囲でアサリ、シオフキ貝の壊死や衰弱を確認。現地調査を引き続き実施するとともに、応急対応について検討中。

(県警本部)

南阿蘇の土砂崩れ現場で行方不明者の捜索にあたっているが、現時点で発見に至っていない。

4 国等の対応状況

(自衛隊)

生活支援活動を行っているが、給食、給水活動は減少傾向にある。

(気象庁)

地震については増減を繰り返しながら、推移している状況で活発に活動している。今後引き続き強い揺れには注意が必要。

(JR九州)

九州新幹線の脱線車両の撤去完了。今後早期復旧に向けて頑張りたい。

(西部ガス)

都市ガスについて、低圧の復旧状況は約10万戸のうち約2万4千戸が復旧しており、復旧率は23.9%。

4 現地対策本部長の発言

(酒井政務官)

昨日、総理が入り、今日の記者会見でもご承知だと思うが、補正予算の関係で被災者支援、インフラの復旧、経済再建これを中心に今国会中に予算を通したいという願いをしていきたいと発言があった。そういう中で私たちも、それに向けて皆さんに願いをしていきたいと思っている。

そういう中で、まずは、ノロウイルスが南阿蘇で起こったが、大きなことになっていないということで、ありがたいと思っているが、ただ、これは、南阿蘇に限らず全ての地域で起こりうる。もちろん、トイレ等の衛生管理も必要だが、壊れた家の中には、冷蔵庫等に生ものがそのまま残っているところもあると思う。雨などで腐ってくる。そのことも頭に入れておく必要がある。

益城町の水道も順調に回復しているということなので、それぞれのところで順番にやってくれており感謝している。

今日は、宇土市に視察に行った。庁舎が完全に潰れた状態で行政の機能は全く動いていないと言っても過言ではない。それぞれの部署が、机を二つ並べたところが、例えば健康福祉部の部署、そういう形の仕事をしている。パソコンも6台使ってやっている状態。大変な状態だと思っている。

今日、南阿蘇村に桜庭局長に行って頂いたので、状況を報告願いたい。

(農林水産省 桜庭局長)

主として、食料、生活物資の状況を中心に拝見させていただいた。

役場に行ったところ、総務省、東京都、大分県等の各県の支援チームが班を立ち上げて、これから本格的に支援作業が始まる場所だった。

食料については、足りているということだった。

南阿蘇中学校の避難所は、ノロウイルスの関係もあり、しっかりと消毒、管理がされていた。気になったのは、荷物の受入をストップさせているということだったが、在庫管理でストックさせているところと避難所間の横持ちをどうするかということで悩んでいる様子だった。また、ニーズのミスマッチもあった。水が豊富な所で、水が非常に山

ほどあった。高齢者が多くて、飲み物は2リットルでなく500ミリリットルがいいという意見もあった。きめ細かな対応が必要と思った。

(酒井政務官)

ここにいらっしゃる方は、一生懸命頑張っているが、統括して指示していく状況がないのかなと感じた。ヘッドがいてコミュニケーションを徹底的にやるぞというのができていないのかという気がした。国としてももっとバックアップしないとイケないと思っている。そういう意味では、人の支援が重要である。

兵谷審議官に指示をしているので、その辺のところの話をお願いしたい。

(内閣府 兵谷審議官)

国としては、被災市町村にリエゾンを始めとして派遣している。県のリエゾンとタイアップして一緒にニーズ調査を実施している。同時に、今後は、フェーズがみなし仮設とか、仮設住宅といった住まいの確保、下水道等のインフラといった復旧、復興に移って参るので、そういうところについても、県と連携しながら、事務職員だけでなく技術職員も含めて確保して支援していきたい。

(酒井政務官)

警察、女性警官の方々がそれぞれの所を回っていただいて、要望を聞いて頂いて、そのまとめが出てきている。それを生かしながら、皆さんに使っていただきたい。

不明者が2人いて、自衛隊や消防の方々がご努力をされているが、早く見つかってくればありがたいが、じゃないと長期になるので、そのご苦労には敬意を表するが、よろしくお願ひしたい。

気象庁から話があったように、まだ予断を許さないという状況なので引き続きご尽力をお願いしたい。

5 県災害対策本部長の発言

(蒲島知事)

連日の懸命な捜索が続いておりますが、依然として2名の方の所在がわからないまま、発災から10日を迎えた。一刻も早い救助を心から願っている。

避難所生活も長期化に伴い、エコノミークラス症候群やノロウイルスの発生など、健康面、衛生面、さらには、心のやすらぎなどのメンタル面のケアが重要となっている。今現場で何が必要なのか、被災者の方々の立場になって考え、現場と本部の連携を密にしながら、生活支援に精一杯努めていただきたいと思う。

昨日、安部首相に現地を視察いただいた。そして、明日25日には、今回の地震を激甚災害に指定していただけたというコメントをお聞きし、大変心強く思っている。

また、交通面では、九州の交通の屋台骨ともいえる九州自動車道が、今月中には全面復旧できる見通しという明るいニュースも入ってきた。復旧・復興に向け、大きく前進できると感じている。

災害現場の皆さんは、夜を徹しての捜索活動で、疲労が極限状態に達していることと

思う。その他の皆さんも、被災者の方の治療やケア、支援物資の調達・配送などで相当お疲れのことと思うが、一日も早い復旧・復興を目指して、お互いに励まし合い、「チームくまもと」として一緒に頑張っていきましょう。

6 小野副知事の発言

メディアの方に2点お願いしたい。

大西市長からも県からも言って欲しいということで話があった。

報道が過熱しているという問題。自治体職員も同時に被災者の方がいる。そういう中で、住民としてメディアからのインタビューを受け、その時の質問の内容が、今うまくいっていないことの根掘り葉掘りの報道が、過剰な報道に繋がっているというところがあるのではないかという声がある。実際、どういう状況なのか、こういう質問を被災者にすることが適切なのか確認しながら業務にあたっただけであればありがたい。

もう一つは、益城町で顕著であるが、タクシーを貸切で取材にのぞまれている方がいらっしゃる。交通手段のないお年寄りの方々が、病院や用事に使えない状況がある。余所から来られる皆さんは、自己完結が原則だと思っているので、ご配慮をお願いしたい。

(以 上)

第16回政府現地対策本部会議・第19回熊本県災害対策本部会議 議事録

日時 平成28年4月25日(月) 16:30～

場所 県庁新館8階 職員研修室

1 地震の状況

別添資料のとおり。後程気象台から

2 被害の状況

死者48名 関連死13名。計61名。

行方不明者2名変更なし

※高野台地区で16時2分に1名の御遺体を発見、身元確認中

重症者、軽傷者は分類未確定も含め、1,383人以上

住家被害：全壊、半壊、一部損壊 1万棟を超える被害

避難者数等は資料のとおり。避難所数561箇所 避難者数約5万人。熊本市3万人弱。

3 県等の対応状況

(総務部)

他県からの人的支援多数

(企画振興部)

鉄道：九州新幹線 脱線車両の撤去完了

航空機：熊本空港52便運航予定

日本財団からの緊急支援：明日14時から日本財団と熊本県で合意書の締結予定

(健康福祉部)

仮設住宅への対応：みなし仮設住宅について、本日から不動産関係団体に無料相談窓口を開設

空き住居の情報提供を開始し、4月28日から申込書の配布開始

ボランティアセンター：10か所10市町村

児童相談所：3箇所では被災後の相談を受け付け

義援金約13億7千万円

(環境生活部)

水道：山都町 配水管の補修完了 断水解消

小川町 完全な断水は二戸に減少

廃棄物：宇城広域連合 クリーンセンター 一機停止していたが、復旧

仮設トイレ：県、熊本市で増加

熊本市の災害ごみの撤去：日曜実績1658トン

(商工観光労働部)

中小企業への支援：特別相談会の実施

融資枠の拡充 資金繰りの支援

廃業をさせないための支援についても考えていく

(農林水産部)

水産業関係：田崎卸売市場は、25日から競りを再開

金融支援窓口：県の団体支援課に設置

県漁連から焼き海苔の提供

(土木部)

九電とNTTに電柱の本数を確認した。道路への影響を知りたいので、本数だけでなく位置の場所についても情報提供をお願いする

(教育庁)

今月中には県立学校については応急危険度判定を終える

県立学校関係の避難所については資料参照

(県警本部)

高野台団地：身元の確認を進める

立野：ヘリでの搜索と国土交通省からの地上からの搜索を継続中

交通整理：主要道路で実施中

(緊急消防援助隊)

立野地区：上空からヘリで搜索

(自衛隊)

給水：昨日より210トン減少

給食：約8,000食減少

給水、給食の減少に伴い、部隊の再編成を考える

4 国等の対応状況

(国土交通省)

応急仮設の整備：8名の応援人員も加え調査を図っている

応急危険度判定：10市町村中、益城町、菊陽町で当初予定分を昨日までに完了

立野土砂撤去：熊本側、大分側より進めている

(海上保安庁)

巡視船による、入浴給水支援は減ってきている

(気象台)

余震に警戒。27日から28日にかけて強いところでは一時間に約30mmの雨

(西部ガス)

体制：4641名

普及状況：12時現在35704戸

カセットコンロの配布総計：約1万5千台

(LPガス協会)

危険なボンベの回収：益城町 約600個

5 現地対策本部長の発言

(酒井政務官)

今、内閣府からアイパッドの話があった。物資の関係で一元化するという意味で試行的にやるが、これが各市町村に整えて動けば、きちんとした体制が整うと思うので、私の方からもご協力をよろしくお願ひしたい。

ごみの関係で、逐次努力いただきながら、難しい面もあるが、引き続きご尽力願ひたい。

文科省には、状況をきちんと把握していただきたい。26日から開校するという所もあるので、その辺も含めてどういう状況か、避難所になっている所もあるので、しっかりと把握して頂きたい。

もう一つは、国交省にお願ひしたけれども、ゴールデンウィークに入る。石井大臣から、九州横断道が開通するという発言があった。すると、被災者の皆さんのところにお身内の方、知り合いの方がどうしても一度行きたいという方がいらっしゃると思う。ボランティアの皆さんもそうだろうし、そうすると、渋滞を起こす可能性もあると思う。対応をお願ひしたい。

官邸の方で、対策本部の会議があった。その時の総理のコメントを申し上げる。「必ず未だ連絡がとれない方々を見つけ出す。その強い決意が、一昨日、南阿蘇で捜索にあっている各隊員から伝わってきた。大変頼もしくも感じた。被災地では、依然地震が続き、天候も不安定だが、各部隊は引き続き二次災害に注意を払いながら、捜索活動に力を尽くして頂きたいと思う。

本日、今般の地震を激甚災害と指定することを閣議決定した。これにより、道路や河川等の公共土木施設、農地や学校等の復旧事業に対する財政支援の特例措置が講じられる。一日も早く復旧が進み、さらに被災地の産業の復興が実現するよう補正予算の編成など、財政面での支援により全面的にバックアップして参りたい。

被災地には、全国各地から延べ約6,000人のボランティアの方々が駆け付けてくれている。物資の仕分け、運搬や被災家屋の片づけ、介護支援などそれぞれの特長を生かして被災された方々を支えてくれている。心から感謝を申し上げたいと思う。

被災された方々に避難所や自動車から、安心な住まいへ一日も早く移っていただくことが急務。被災家屋の被害認定、罹災証明書の交付等に最優先で取り組まなければならない。その手続きを加速するため、国の職員を速やかに投入すると同時に全国の自治体に対して、こうした業務に精通した職員の追加派遣を要請する。マンパワーを総動員し、出来るだけ迅速に交付されるよう全面的に支援して参りたい。

同時に仮設住宅の建設も先手先手で進めていかなければならない。被災自治体の作業を支援するため、今日から東日本大震災後の建設作業を経験した職員を被災地に派遣した。公営住宅の受付や用地の選定は既に始まっているが、建設の一日も早い着工に向けて、被災自治体と一体となって取組みを加速頂きたいと思う。

発災から10日、インフラの復旧も進み、九州新幹線も間もなく全面復旧する。被災地は精神的にも肉体的にも困難な状況に置かれている。省庁の枠にとらわれることなく、一致団結してやれることは全て直ちに実行して下さい、という総理からのコメントだった。

私から皆さんにお願ひしたいのは、現場を知っているのはここです、本当のことを知

っているのは。そして、本当に現場に行ってもらっしやる皆さんが、一番よく知ってもらっしやる。そのことを、的確に情報を集めて、それを、県は国に伝えていただくようご努力をお願いしたい。それが、一日も早い被災者の助けになると思っている。

6 県災害対策本部長の発言

(蒲島知事)

新たに災害関連死の方が1名増え、今回の地震でお亡くなりになられた方は、61名となった。謹んでご冥福をお祈りいたします。

連日、懸命な捜索が続いておりますが、依然としてお2名の方の所在がわからないまま。そして、たった今入った情報だが、先ほど、高野台において、お一人の方が発見された。一刻も早い救助を心から願っている。

また、本日夕方から明日にかけて、所によりまとまった雨が降る可能性があるようだ。余震の続く中、土砂災害には十分警戒いただくようお願いしたい。

避難所生活の長期化に伴い、エコノミッククラス症候群やノロウイルスの発生など、健康面、衛生面、さらには、心のやすらぎなどのメンタル面のケアが重要となっている。避難所生活でのニーズは、時間の経過や天候などにより、刻一刻と変化する。今現場で何が必要なのか、被災者の方々の立場になって考え、現場と本部の連携を密にしながら、生活支援に精一杯努めていただきたいと思います。

本日午前中に、「平成28年熊本地震」を激甚災害に指定する閣議決定がなされた。発災当初から早期指定を訴えていた私の思いを、速やかに受け止めていただき、非常に心強く、またありがたく思っている。この決定により、国庫補助の嵩上げ措置などが取られるので、これらの制度を最大限に活用し、復旧・復興を力強く進めてまいりたいと思う。

皆さん現地での捜索活動や、被災者の方の治療やケア、支援物資の調達・配送などで、相当お疲れのことと思うが、一日も早い復旧・復興を目指して、お互いに励まし合い、「チームくまもと」として一緒に頑張っていきましょう。

(以 上)

第17回政府現地対策本部会議・第20回熊本県災害対策本部会議 議事録

日時 平成28年4月26日(火) 16:30～

場所 県庁新館8階 職員研修室

1 地震の状況

別添資料のとおり。

2 被害の状況

死者49名(県警)。その他14名。計63名。

被害多数。(資料参照)

避難者数等は資料のとおり。避難者数約4万人。熊本市約2万人。

3 県等の対応状況

(総務部)

人的支援の状況 800人規模の支援、熊本市には別途1000人

(企画振興部)

航空機 全体の運航数52便には変更はないが、熊本～成田便、熊本～小牧便に変更あり。

(健康福祉部)

被災住宅の応急修理について市町村担当者に説明会実施。

義援金 約18億円

(環境生活部)

ごみ処理施設 4施設がストップ、宇城市や福岡市、北九州市などで広域対応。

熊本市に対し、長崎市、諫早市、大村市が廃棄物の処理、運送に協力。

水道施設 阿蘇市断水2000戸だが、前日から1500戸減。宇城市豊野町断水解消。

(農林水産部)

農林関係の被害額の第1報、236億円。ただし、被害の大きいところは調査自体できていない。第2報までには時間がかかる見込み。

4 国等の対応状況

(国土交通省)

九州道、嘉島ジャンクションから八代まで33km、本日15時一般交通開放。

(気象庁)

本日13時現在、余震914回、震度4以上は本日はないが、引き続き警戒を。

雨は、今夜からあさって昼ごろまで降る見込。

(JR九州)

九州新幹線熊本～新水俣、明日9時に試験走行のうえ、安全が確認できれば明日午後、営業運転再開。

(西部ガス)

本日12時現在、51.4%復旧

5 現地対策本部長の発言

(酒井政務官)

昨日は、お一人の方が見つかった。改めてお悔やみを申し上げる。

あとお一人の方について、早く発見されることを願っている。

水道、ガスの復旧も順調にして下さっている。ガスは、51.4%の復旧率ということで、私が泊まっているところも水風呂からお湯になった。ありがたいと思っている。

今日もグランメッセを見てきたが、少しずつ家に帰られる方が増えてきたのかなという感じがしている。その意味からいくと、復興というか、そういう方向に向けて動き始めている様子になってきているのかなという感じがしている。

そうした中で心配するのは、先ほどから数字に出ているけれども、地震関連でお亡くなりになった方が14名いらっしゃるという報告があった。車の中や避難所でお暮しになる方々、それぞれ、ある意味ではつらい状況になってきていると察する。特に体の不自由な方や赤ちゃんを抱えている人たちは、大変な思いでいらっしゃるだろうと思う。

そういうことの中で、皆さん方が一生懸命努力をしてくださっている。特に、体の不自由な方たちのための施設、750人くらいの確保をしているが、今日の報告では32組73人の人たちが入ったという報告があった。昨日が24組55人だったので、少しは増えているけれども、まだまだかなと思っている。

今日も政府の幹部の方で手を打ちながら、なんとか、もう少し、本当は自分の住んでいるところにいたいんだろうけども、それでは辛くなるから、お医者さん保健師さんと説得しながら、一時的にそういう所に移っていただくこともやっていかないといけないと思っている。その時の移動手段も考えないといけない。

罹災証明の関係等で、避難所に行ったときに、益城町だったが、情報が入らないという意見があった。NHKや民放さんをお願いしたいが、テレビのテロップに流して頂くとありがたい。

5 県災害対策本部長の発言

(蒲島知事)

昨日夕方、高野台で発見された方の死亡が確認された。また、新たに熊本市から災害関連死の方1名の報告があり、今回の地震でお亡くなりになられた方は、63名となった。謹んでご冥福をお祈りいたします。

連日、懸命な捜索が続いているが、依然として1名の方の所在がわからないままである。一刻も早い救助を心から願っている。

明日の夕方から明後日の朝方にかけては、再びまとまった雨が降る模様。余震が続く中、土砂災害には十分警戒いただくようお願いしたい。

避難所生活の長期化に伴い、エコノミークラス症候群やノロウイルスをはじめとする感染症の発生など、健康面、衛生面、さらには、メンタル面のケアが重要となっている。防止策などにしっかりと取り組んでいただきますようお願いしたい。

また、避難所におけるニーズの把握については、国が主導して、i p a dを活用した支援物資の供給システムが導入されつつある。これによって、被災者の方々のニーズに即した生活支援が実現できると思っている。

昨日は、村田副知事に、関係各省への緊急要望のため、上京してもらった。特に支援をお願いしたい10項目について、本県の実情を交えながら、しっかりと伝えてもらった。

国においても、補正予算で最大限の支援を行うというお約束をいただいております、非常に心強く、またありがたく思っている。これらの支援をいただきながら、復旧・復興を力強く進めてまいりたい。

皆さん、現地での捜索活動や、被災者の方々への生活支援などで、かなりお疲れのことと思うが、一日も早い復旧・復興を目指して、「チームくまもと」として一緒に頑張っていきましょう。

(以 上)